

名古屋市民間木造住宅耐震診断業務

令和5年度に向けての勉強会

令和5年3月22日（水）①・②、24日（金）③・④

東照ビル 1階大会議室

名古屋市 耐震化支援室・名古屋支部 耐震診断事業部

本日の勉強会資料

※診断員印刷持参

- 令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）及び（資料編）

※会場配布資料

- 耐震診断業務勉強会 次第
- 耐震診断（審査）業務における注意事項について
- 耐震診断（審査）業務における注意事項の承諾書
- 木造住宅無料耐震診断業務における「新型コロナウイルス感染症」予防対策について
- 名古屋市民間木造住宅耐震診断業務 令和5年度に向けての勉強会パワーポイント資料
- 名古屋市 伝統構法及び対象外住宅報告書 様式
- 出力チェック表（注意事項）
- 耐震診断現地チェック表（注意事項）
- 耐震診断審査チェック表（注意事項）
- 耐震診断業務完了報告書（注意事項）
- 耐震診断員経費の納入先 届出用紙
- 勉強会質問用紙

本日の流れ

司会進行：耐震診断事業部 審査員 青木隆明

- 09：30～（13：30～） 開会のあいさつ
- ・公益社団法人 愛知県建築士事務所協会 名古屋支部 支部長
 - ・名古屋市住宅都市局 耐震化支援室
- 09：50～（13：50～） 診断業務の変更点、診断事業に関する注意事項、助成制度、アンケート集計結果など
- 名古屋市住宅都市局 耐震化支援室 技師
- 10：20～（14：20～） 休憩（10分間）
- 10：30～（14：30～） ①診断業務：報告書作成に伴う作成方法と注意点など
- 愛知建築士会 審査員 小池公一
- ②診断業務：依頼票受け取りから現地調査時の注意点
- 審査予約・審査時・耐震診断業務完了報告書までの注意点など
- 耐震診断事業部 審査員 佐藤泰久
- ③耐震診断業務に伴う損害賠償保険についての説明と注意事項など
- 耐震診断事業部 審査員 青木美幸
- 11：50～（15：50～） 閉会のあいさつ
- ・公益社団法人 愛知県建築士事務所協会 名古屋支部 耐震診断事業部 部長

令和5年度
名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル
(事務編)



名古屋市住宅都市局耐震化支援室

令和5年度
名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル
(資料編)



名古屋市住宅都市局耐震化支援室

①愛知建築士会 審査員 小池 公一

診断業務

耐震診断報告書作成に伴う作成方法と注意点など

令和5年度 耐震診断業務における確認事項

①報告書作成シートのバージョンの確認

最新バージョンは「**名古屋市Ver.12.3.2（県Ver.4.1.3）**」となりますのでご注意ください。

※エクセルデータは、耐震化支援室より診断員へメール送信されますので必ず確認し保存すること。なお、エクセルデータは不備等が発生した場合等に更新されますので耐震化支援室からのメールにはご注意ください。

※パスワードは「**NaGoYa2921**」となります。

耐震診断報告書作成シート		名古屋市ver.12.3.2(県Ver.4.1.3)	凡例	緑: ▼から選択して入力	黄:
項目	入力		注意事項		
住宅の所在する市町村名	名古屋市				
1. 耐震診断を実施した建築物概要					
受付番号			!入力してください		
調査年月日			!入力してください		

②地盤調査についての確認

【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P7参照】

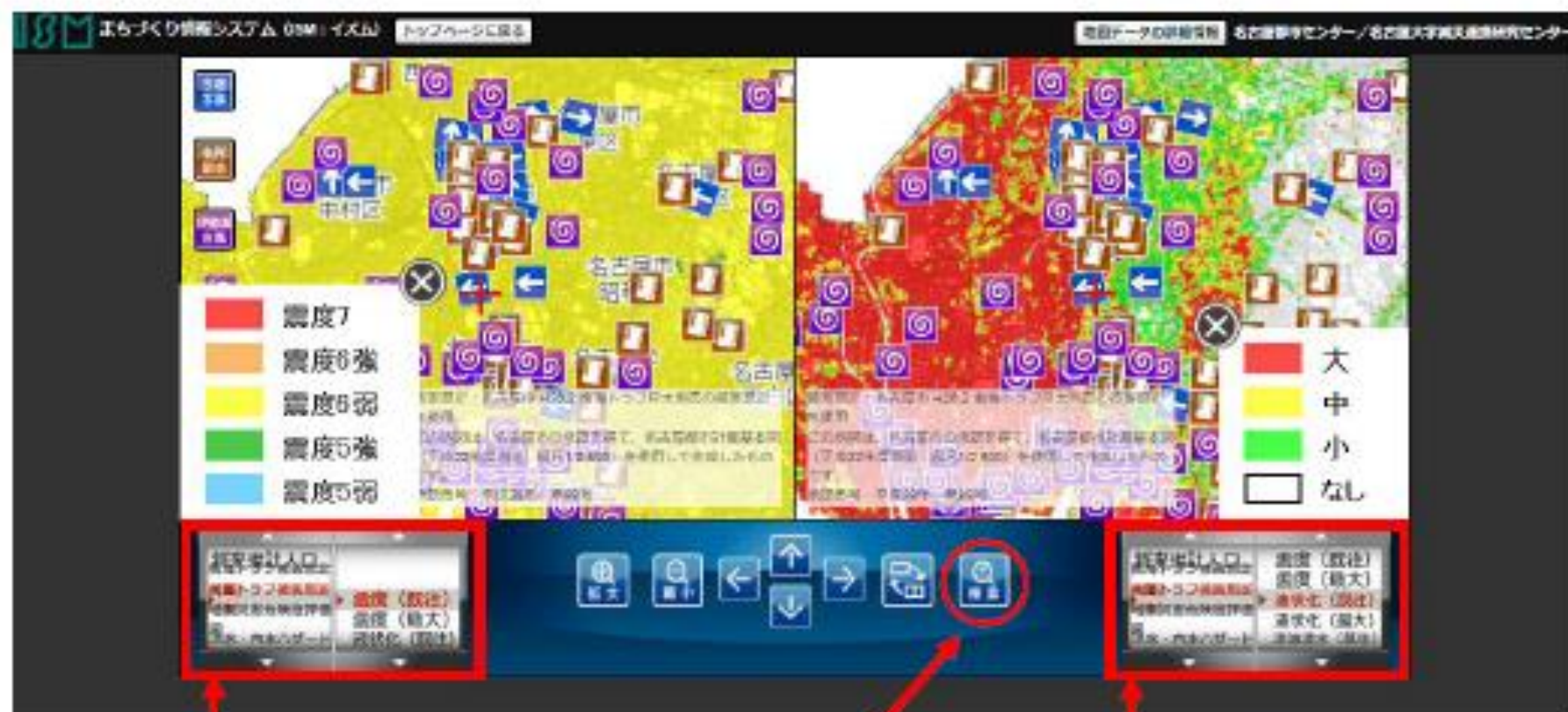
3. 事前調査・準備

- (1) 地盤調査を『まちづくり情報システム (ISM: イズム)』に掲載されている“南海トラフ被害想定(市)”の“震度(既往)”“液状化(既往)”によりそれぞれ行う。

名古屋都市センターのホームページより閲覧。

ホームページ>まちづくり資料総合案内(付一)>[図]をすぐにご利用する>同意して利用する>[図]

<まちづくり情報システム (ISM: イズム) の見方>



南海トラフ被害想定 (市)
震度 (既往)

南海トラフ被害想定 (市)
液状化 (既往)

<住所検索>

ISMの検索ボタンを押したあと、申込者の住所から、**想定震度**と**液状化可能性**を確認する。

検索用7

住所検索

[[検索したい住所を選択してください]]

県	内町制	大字	検索
<input type="text" value="愛知県"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	

郵便番号

<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="4"/>	<input type="text" value="5"/>	<input type="text" value="6"/>	<input type="text" value="7"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="9"/>
<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="4"/>	<input type="text" value="5"/>	<input type="text" value="6"/>	<input type="text" value="7"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="9"/>
<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="4"/>	<input type="text" value="5"/>	<input type="text" value="6"/>	<input type="text" value="7"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="9"/>
<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="4"/>	<input type="text" value="5"/>	<input type="text" value="6"/>	<input type="text" value="7"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="9"/>
<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="1"/>	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="3"/>	<input type="text" value="4"/>	<input type="text" value="5"/>	<input type="text" value="6"/>	<input type="text" value="7"/>	<input type="text" value="8"/>	<input type="text" value="9"/>

- 名古屋市千種区
- 名古屋市東区
- 名古屋市北区
- 名古屋市西区
- 名古屋市守山区
- 名古屋市中区
- 名古屋市昭和区
- 名古屋市瑞穂区
- 名古屋市熱田区
- 名古屋市中川区

②地盤調査についての確認

【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P8参照】

申込者の住所から、**想定震度**と**液状化可能性**を確認する。

地盤判定基準

		液状化可能性			
		なし	小	中	大
想定震度	5強以下	良い・普通			
	6弱		悪い		
	6強以上				非常に悪い

◆想定震度5強以下かつ液状化可能性「なし」の地域・・・良い・普通地盤

◆想定震度6強かつ液状化可能性「大」の地域・・・非常に悪い地盤（軟弱地盤割増1.5）

◆その他の地域・・・悪い地盤

③エクセル「診断報告書作成シート」内の診断員情報の入力について
【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P8参照】

“診断員データ入力”のシートを選択し、入力する。

	A	B	C
1	診断員データ		
2	診断員名	耐震次郎	氏名
3	診断員番号	02尾-0000	県の登録番号 (例)02尾-0000
4	所属	耐震設計事務所	設計事務所名を入力
5	資格	一級建築士	建築士資格を選択
6	所在地	中区丸の内3-1-1	所属の所在地または住所
7	連絡先TEL	052-972-2921	(例)052-000-0000
8			

報告書入力 | **診断員データ入力** | ●報告書・出力チェック表印刷 | ●診断通知書印刷

※エクセルの上記の「診断員データ入力」は全項目を記入すること。
但し、WEEの診断員情報入力とは相違しますのでご注意ください。

④エクセル「診断報告書作成シート」内の申込者の情報入力について
 【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P9参照】

“報告書入力”のシートを選択し、“1. 耐震診断を実施した建築物概要”を入力する。

	A	B	C	D
1	耐震診断報告書作成シート	名古屋市Ver.12.3.2(県Ver.4.1.3) 凡例	様: ▼から選択して入力	黄:
2	項目	入力		注意事項
3	住宅の所在する市町村名	名古屋市		
4	1. 耐震診断を実施した建築物概要			
5	受付番号	20230000		
6	調査年月日	2023年4月1日		
7	申込者(建物所有者)	名古屋太郎		
8	申込者連絡先	123-456-7890		
9	建物名称	名古屋市邸		
10	所在地	名古屋市東区〇〇町△△		
11	用途	専用住宅		
12	建築年度(着工日)	昭和50年(1975年)		
13	構造形式	在来軸組構法(方法1)		
14	1階床面積		50.00	m ²
15	2階床面積		0.00	m ²
16	延べ床面積		50.00	m ²
17	2. 耐震診断の概要			

- ・ 受付番号
 - ・ 調査年月日
 - ・ 申込者（建物所有者）
 - ・ 所在地
- などを入力

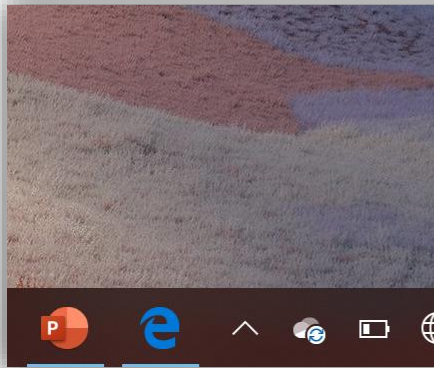
※現地調査（診断）の前に依頼票に記載されている申込者の情報を入力し
 「名古屋市無料耐震診断調査通知書」を印刷し調査当日に持参する。



名前の漢字が入力できない場合

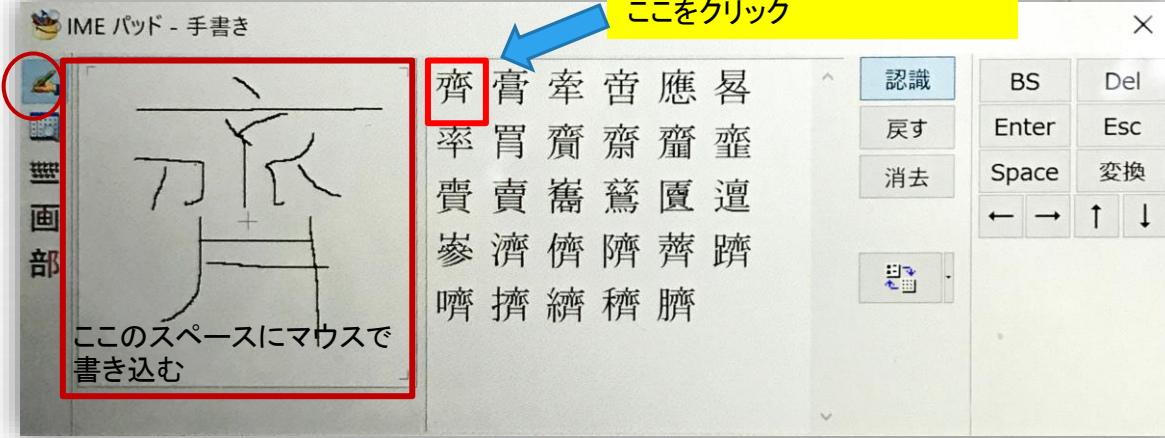
難しい齋を入力したい。

この部分に
右下の画面
が表示される。

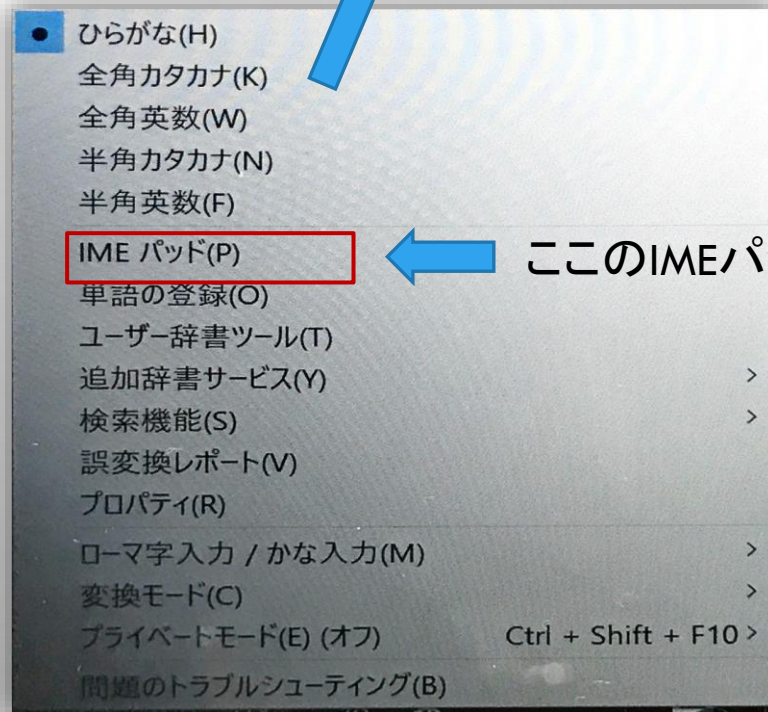


画面右下のここを右クリック

この手書きが現れない場合ここをクリック



画面に右上の画面が現れる。



このIMEパッドをクリックを左クリック

④エクセル「診断報告書作成シート」内の診断調査通知書について
 【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P9参照】

④ “●診断通知書印刷”のシートを選択し、『依頼票』と入力内容に間違いがないか確認、印刷

名古屋市無料耐震診断調査通知書

年 月 日

④診断申込者
 名古屋市東区○○町△△

名古屋大町 様

名古屋市無料耐震診断にお申し込みいただきありがとうございます。
 下記診断員を派遣いたしますのでご協力をお願いします。
 診断員は愛知県の登録建築士で名古屋市の委託を受けた民間建築士です。本人確認のため登録証をご確認ください。

この診断は、非破壊による目視調査となっておりますが、所有者の承諾、協力により下記の調査を行います。

①畳上り、床板外しなどによる床下調査
 ②伸入等の小屋裏点検口からの小屋裏調査
 なお、建築時の図面、写真などがありましたら診断精度が上がりますので拝見させていただきます。
 お借りする場合は下記借用書に記入いたします。

診断内容等に関するお問合せは
 名古屋市住宅政策課耐震土木建築古構係 ママ

受付番号 20230000 をお知らせください。

〒460-8609 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号(市役所西庁舎3階)
 電話 052-972-2921 ファックス 052-972-4179

診断員 登録証番号	03尾-1001	
氏名	耐震次郎	(自署)
所属	耐震設計事務所	
連絡先(電話番号)	052-972-2321	

診断調査後、約1〜2か月程度で報告書を取りまとめるので、再度ご報告にお知らせします。

報告書入力 診断員データ入力 ●報告書・出力チェック表印刷 ●診断通知書印刷

②③で入力した情報が自動入力される。(印刷した“名古屋市無料耐震診断調査通知書”は現地調査時に自署欄に名前を記入して申込者の方へ渡す。)

診断員の自署記入(厳守)

⑤ 【重要】ファイル名を半角で診断受付番号とし保存 (例: 20230001.xlsx)
 ファイルの種類は必ず、「Excelブック (*.xlsx)」形式とする

④各階平面図作成について

【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P12参照】

5. 各階平面図作成

(1) 調査内容をもとに各階平面図を作成する

- A4版に入るように作成し縮尺は原則1/100とする
- 室名と寸法を記入
- 屋根、壁の仕様（外壁仕上、土壁の有無と厚み、ボード貼の評価、筋かい位置等）を分かる範囲で凡例等により記入する
- 有開口壁評価の場合、各開口部に「窓型開口部」、「掃出型開口部」を記入
- 通し柱の位置を記入
- 方角を記入
- X、Y方向の記入
- 1/4の領域線を記入（Weeと整合させること）
- 増築部分は範囲がわかるように記入する
- 添付写真の撮影方向を記入
- 右上に診断受付番号を記入
- 現地調査年月日を記入

・平面図は原則として、A4サイズにおさまる様に作成すること。（縮尺は原則1/100） 但し、診断対象建物の規模によりやむを得ずA3サイズで平面図を作成した場合はA4サイズに縮小した平面図を報告書に添付すること。（平面図にはその旨の注意書を記載する。）

・平面図の記載内容については、**マニュアル事務編P12の【5.各階平面図作成】**に記載せられている内容は最低限記載すること。

表現方法は診断員各自の表現で良い。但し、申込者が容易に理解しやすい表現方法でお願い致します。

平面図作成例

受付番号

調査(診断)年月日

受付番号 20220000
 診断年月日 2022年3月15日

◆「WEE2012」に伴う変更箇所◆
 ・土塗り壁評価について
 横架材まで達する or 横架材間7割以上
 ・有開口壁評価について
 各開口部に、窓型開口部 or 掃出型開口部
 を明記する。

・外部仕上げ
 屋根 日本瓦葺き(土下地)
 外壁 モルタル塗り(全面)
 土塗り壁(横架材まで達する)

・内部仕上げ
 土塗り壁(横架材間7割以上)
 玄関、廊下 化粧合板
 洋室、台所、居間 石膏ボード
 和室 化粧合板
 トイレ 石膏ボード
 洗面 石膏ボード

筋かい 30×90
 (平面図表記)
 通し柱
 (平面図表記)

建設年度 昭和36年
 増築・改築なし
 - - - 1/4領域線
 窓 窓型開口部
 掃 掃出型開口部

有効開口部評価できない開口部

1/4領域線

1/4領域線

建築年度(増築年度)

1/4領域線

有効開口部評価できる開口部

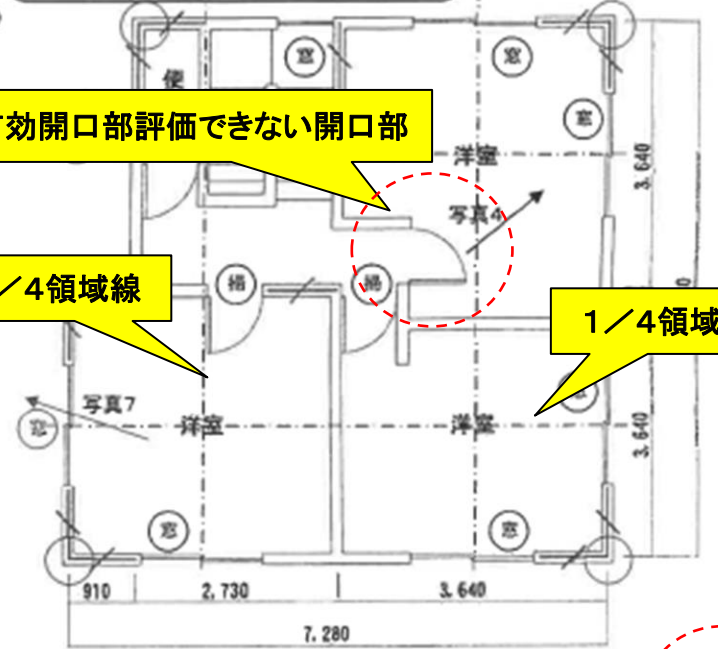
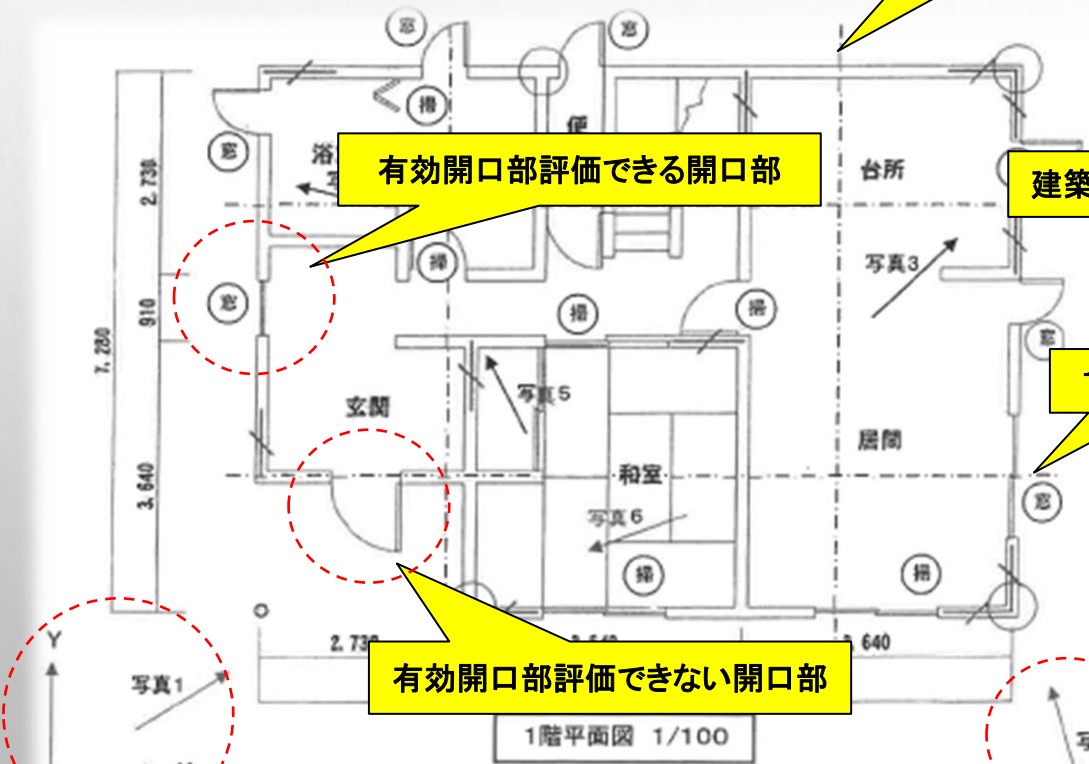
有効開口部評価できない開口部

有効開口部評価できる開口部

方位

X・Y方向

写真撮影方向




凡例の記入例

・外部仕上げ

屋根 日本瓦葺き(土下地)
 外壁 モルタル塗り(全面)
 土塗り壁(横架材まで達する)

・内部仕上げ



土塗り壁(横架材間 7割以上)
 玄関、廊下 化粧合板
 洋室、台所、居間 石膏ボード
 和室 化粧合板
 トイレ 石膏ボード
 洗面 石膏ボード

 筋かい 30×90
 (平面図表記)

 通し柱
 (平面図表記)


建設年度 昭和 36 年
 増築・改築なし

 1/4傾斜線

 窓型開口部
 掃出型開口部

・外部仕上げ
 屋根 日本瓦葺き(土下地)
 外壁 モルタル塗り(全面)
 土塗り壁(横架材まで達する)

・内部仕上げ
 土塗り壁(横架材間 7割以上)
 玄関、廊下 化粧合板
 洋室、台所、居間 石膏ボード
 和室 化粧合板
 トイレ 石膏ボード
 洗面 石膏ボード

 筋かい 30×90
 (平面図表記)

 通し柱
 (平面図表記)

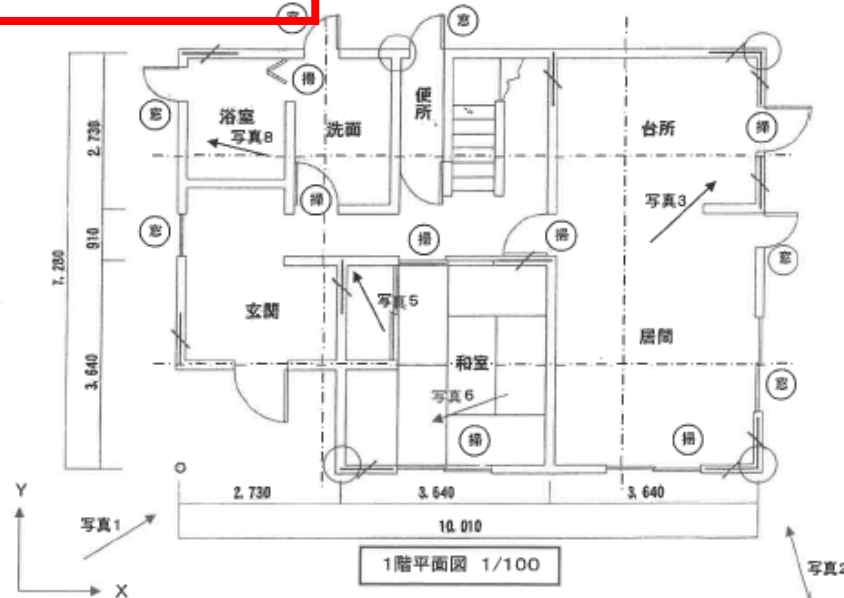
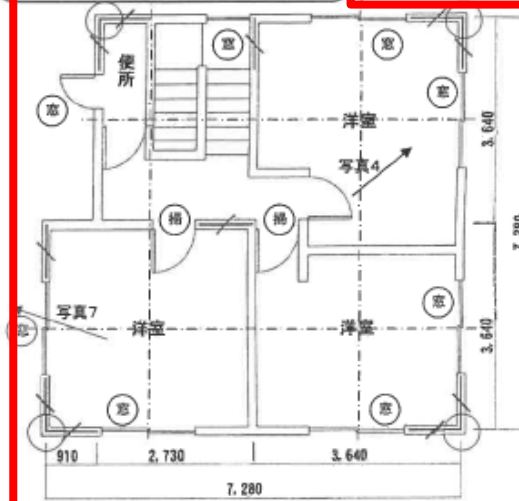
建設年度 昭和 36 年
 増築・改築なし

 1/4傾斜線

 窓型開口部
 掃出型開口部

「WEE2012」に伴う変更箇所
 土塗り壁評価について 横架材間 7割以上
 有開口部評価について 各開口部に、窓型開口部 or 掃出型開口部
 を明記する。

受付番号 20220000
 診断年月日 2022年3月15日



受付番号 20220000

診断年月日 2022年3月15日

④「名古屋市耐震診断報告書作成シート」（エクセル）の作成について
 【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P13参照】

1. 耐震診断を実施した建築物概要

	A	B	C	D
1	耐震診断報告書作成シート	名古屋市ver.12.3.2(原Ver.4.1.3)	凡例	緑: 選択して入力 黄:
2	項目	入力		注意事項
3	住宅の所在する市町村名	名古屋市		
4	1. 耐震診断を実施した建築物概要			
5	受付番号	20230000		
6	調査年月日	2023年4月1日		
7	申込者(建物所有者)	名古屋太郎		
8	申込者連絡先	123-456-7880		
9	建物名称	名古屋市邸		
10	所在地	名古屋市東区〇〇町△△		
11	用途	専用住宅		
12	建築年度(着工日)	昭和50年(1975年)		
13	構造形式	在来軸組構法(方法1)		
14	1階床面積	50.00 m ²		
15	2階床面積	0.00 m ²		
16	延べ床面積	50.00 m ²		
17	2. 耐震診断の結果			
18	結果	倒壊する可能性が高い		0.25
19	〇. 印刷			

＜申込者連絡先＞

診断結果報告時の連絡先を入力。

＜所在地＞

住所を住居表示で入力。

＜建物名称＞

- ・原則、“所有者名邸”。
- ・借家の場合は、“所有者名様貸家”等。
 (借家人の名前は入力しない。)
- ・アパートなどで建物名が分かるものは入力。

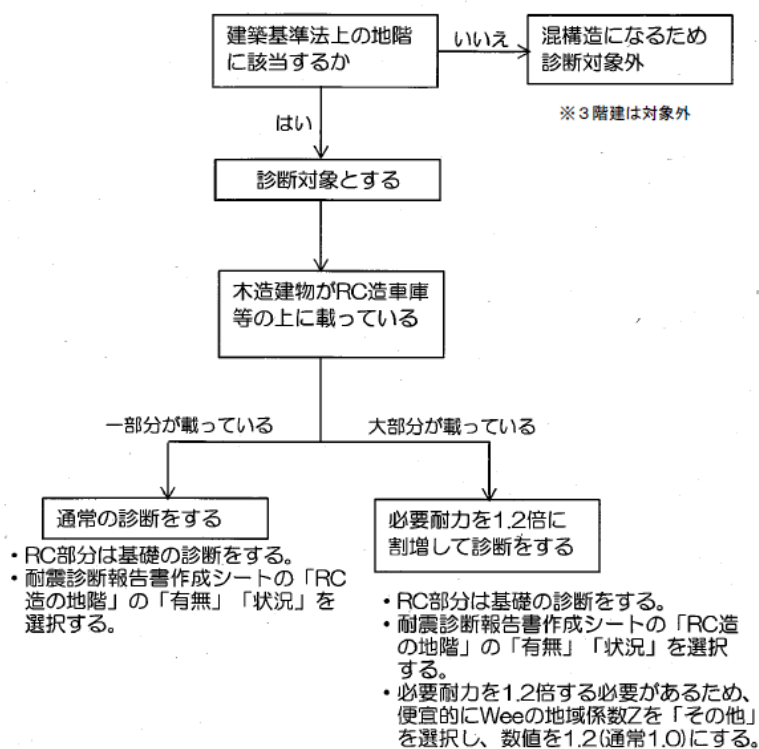
＜用途＞

専用住宅、併用住宅、長屋、共同住宅から選択。
 ※長屋：共用部がないもの。
 ※共同住宅：共用廊下など、共用部があるもの。

④「名古屋市耐震診断報告書作成シート」（エクセル）の作成について
 【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P14参照】

【令和5年度名古屋市民間
 木造住宅耐震診断マニュアル
 （資料編）P4参照】

3. 木造住宅がRC造の車庫等の上にある場合の診断の取扱いについて



3. 現地調査結果（抜粋）

19	3. 現地調査結果		
20	想定震度	震度6弱程度	※「あなたの街の地震ハザードマップ」の「過去の地震を考慮した最大クラス」より入力
21	液状化可能性	大(発生の可能性が高い)	
22	地盤種別	悪い(軟弱地盤割増1.0)	1.0
23	地盤の対策	特別な対策を行っていない	
24	地形	状況 平坦、普通	※土砂災害危険箇所は地震ハザードマップによる
25		対策 特別な対策を行っていない	
26	RC造の地階	有無 無	
27		状況 -	1.0

地震ハザードマップで調べた“想定震度”、“液状化可能性”を入力すると、地盤種別が自動入力される。

Wee2012の建物概要入力の“⑥地盤による割増”はこの数値を入力。

<RC造の地階>

※木造住宅の大部分がRC車庫の上に乗る場合は、必要耐力を1.2倍。
 Wee2012の建物概要入力の“⑤地域係数”はこの数値を入力。

④ 「名古屋市耐震診断報告書作成シート」(エクセル)の作成について 【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル(事務編)P16参照】

劣化度調査票					
部位	材料、部材等	存在	劣化事象	劣化	
屋根葺き材	金属板	有・無	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	有・無	
	瓦・スレート	有・無	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	有・無	
種	軒・呼び樋	有・無	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	有・無	
	縦樋	有・無	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	有・無	
外壁仕上げ	木製板、合板	有・無	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	有・無	
	窯業系サイディング		こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	有・無	
	金属サイディング		変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、	有・無	
	モルタル		シ	有・無	
露出した躯体		有・無	水	有・無	
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	水	有・無	
		窯業系サイディング	水	有・無	
		金属サイディング	水	有・無	
		外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある	有・無	
		床排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	有・無	
内壁	一般室	内壁、窓下	有・無	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	有・無
	浴室	タイル壁	有・無	目地の亀裂、タイルの割れがある	有・無
		タイル以外	有・無	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	有・無
床	床面	一般室	有・無	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	有・無
		廊下	有・無	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	有・無
	床下	有・無	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	有・無	

注意：劣化度調査は建物の現状を把握し所有者(申込者)へ報告する内容です。診断員の責任に於いて判断して下さい。全く劣化事象が無い事は希な状態であると思われま。診断対象建物は昭和56年5月以前の建物です慎重に判断して下さい。

部位	劣化現象	劣化
88 劣化度調査票	存在↓	劣化現象 ※存在があるもののみ入力チェックする
89 屋根葺き材:金属板	有	割れ、欠け、ずれ、欠落がある :劣化有
90 屋根葺き材:瓦・スレート	有	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がない :劣化無
91 軒・呼び樋	有	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がない :劣化無
92 縦樋	有	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がない :劣化無
93 外壁仕上げ:木製板、合板	有	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある
94 外壁仕上げ:窯業系サイディング		こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある
95 外壁仕上げ:金属サイディング		変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがない
96 外壁仕上げ:モルタル		シ
97 露出した躯体	有	水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がない
98 バルコニー手すり壁:木製板、合板	無	水
99 バルコニー手すり壁:窯業系サイディング		水
100 バルコニー手すり壁:金属サイディング		水
101 バルコニー外壁との接合部	無	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある
102 バルコニー床排水	無	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い
103 内壁:一般室内壁、窓下	有	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがない
104 内壁:浴室のタイル壁	有	目地の亀裂、タイルの割れがある
105 内壁:浴室のタイル壁以外	有	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある
106 床面:一般室	有	傾斜、過度の振動、床鳴りがない
107 床面:廊下	有	傾斜、過度の振動、床鳴りがある
108 床下	有	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある
109	存在点数 = 21	劣化点数 = 15

が転記される。

<存在↓>
左記の項目が存在する場合は“有”を入力。
Wee2012の“劣化度入力”も同じ内容を入力。

<劣化現象>
左記の項目が“有”の部分のみ、劣化現象を選択し入力。
Wee2012の“劣化度入力”も同じ内容を入力。

<劣化度調査票> **間違いの多い部分です!**
劣化点数・存在点数の入力で劣化度が決まります。
部位・劣化の有無の入力に注意してください。

<存在点数・劣化点数>
Wee2012の“劣化度入力”の合計と同じ点数であることを確認。

⑥ 「2012年改正版 木造住宅耐震診断プログラム“WEE2012”（一般診断法）の作成について【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P18～参照】

(1) 診断員情報の入力

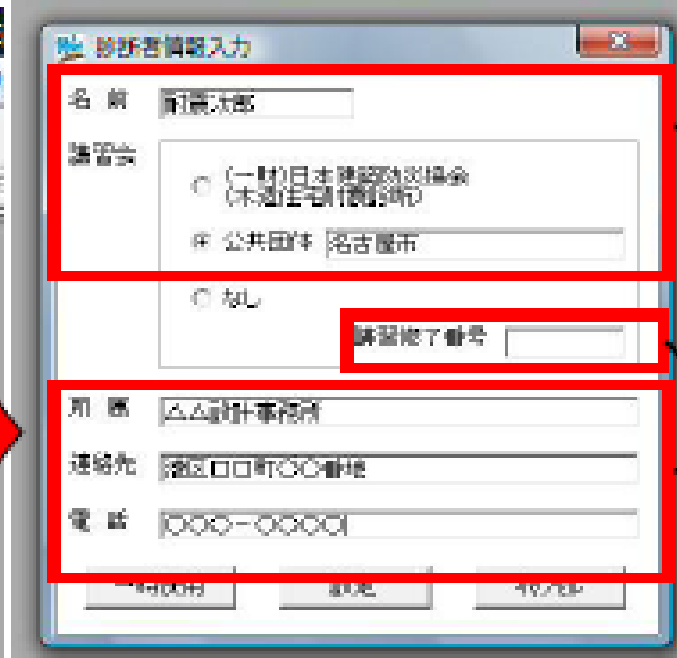
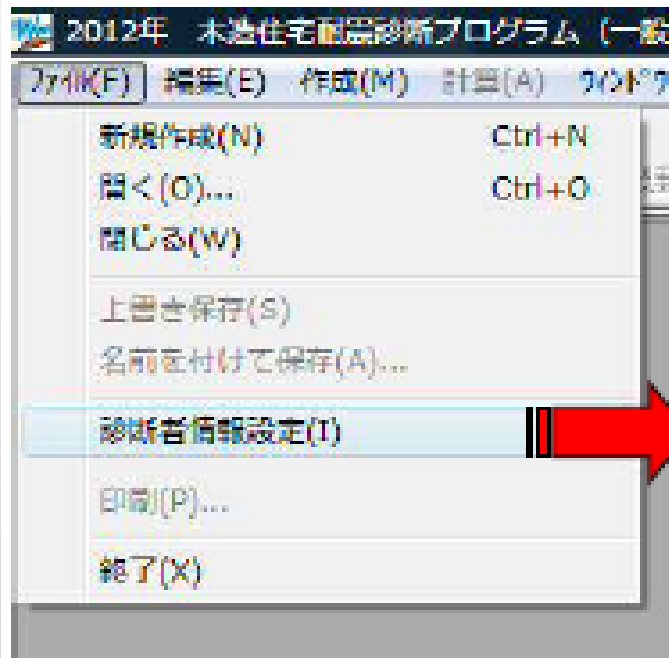
2012年改訂版 木造住宅耐震診断プログラム（一般診断法）>ファイル>診断者情報設定

※バージョンは必ず最新版をご使用ください。

(Wee2012 Ver. 1. 2. 0 及び Wee2012 (Win10) Ver. 2. 1. 0 のどちらかを使用してください。)

注意!!

**審査会場でデータ修正を行った際は
診断者情報を再確認!**



①名前
②講習会
公共団体“名古屋市”
と入力

入力しない

⑥ 「2012年改正版 木造住宅耐震診断プログラム“WEE2012”（一般診断法）の作成について
【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P19参照】

基本設定

計算モード
 現況診断 補強計算

診断方法
 方法1 方法2

モジュール
1モジュール = 910 mm

建物概要 (緑色は①～④の正しい文字をクリック)

① 建物名称 名古屋太郎部 診断依頼者: 名古屋太郎 様

② 所在地 港区〇〇町△△番地

③ 竣工年
 築10年未満 築10年以上 昭和 35 年

④ 建物仕様
建物の階数
 平屋 2階建 3階建 1階はRC又はS造

軽い建物 重い建物 非常に重い建物
屋根仕様 [土葺瓦屋根等] 壁仕様 [土塗外壁+ボード内壁]

⑤ 地域係数 Z
 1.0 0.9 0.8 0.7 その他

⑥ 地震による影響
 1.0 割増係数

<計算モード>
現況診断を選択

<診断方法>

- ・在来軸組構法は方法1を選択。
(部分的に伝統構法を含む場合も同じ。)
- ・伝統構法は方法2を選択。
必ず「伝統構法等選別チェックシート」で確認する。

<モジュール>

モジュールの入力は各自で設定できるが、名古屋市の耐震診断事業ではグリッド900～1,000で統一。
入力は450～500サブグリッド入力とする。(診断員による各自設定はしない)

※耐力壁の評価は単独壁で筋かいの場合が900以上、耐力壁面材の場合が600以上だが、面材も900未満は入力しない
(プログラム上450では入力できない。)

【補足1】

600モジュールで300サブグリッド入力とすればサブグリッド2ヶ所分を柱間隔とし600面材が入力可能となるが、①名古屋市として統一する必要がある、②通り番号が柱間でなくなる、③入力が煩雑になる、④入力できる規模が小さくなる、などの理由で採用しない。ただし、診断後の改修計画などで利用することは可能。

※注意※

2021年バージョンアップ版のWee2012 (Win10) Ver. 2.1.0では、精算法が追加されていますが、本事業における耐震診断については、精算法は使用しないでください。

⑥ 「2012年改訂版 木造住宅耐震診断プログラム “WEE2012” (一般診断法) の作成について 【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル (事務編) P23、24参照】

(5) 壁仕様入力

- 【外面 (上段)】: 外壁の場合は外壁仕上、
内壁の場合は内壁仕上を入力
- 【芯】 : 筋かいを入力
- 【外面 (下段)】: **土壁の場合はここに入力**
※土壁と内壁仕上 (ボード) の重複入力はいらない

※一つの耐力要素を重複して入力しない。
(例: 土壁を上下段に入力は不可)
※全て不明入力は原則として使用しないこと。
※詳細は壁入力例 (後ページ)、資料編など参照。

<補足>
入力順序に特に定めはないが下記の順序で入力すると効率的です。

方法1
【例】1階外壁入力⇒1階外周入力⇒2階外壁入力⇒2階外周入力⇒2階内壁入力⇒1階内壁入力

方法2
【例】1階外壁入力⇒1階外周入力⇒2階外壁入力⇒2階外周入力⇒2階内壁入力
⇒1階内壁入力⇒1階柱入力⇒1階垂れ壁入力⇒2階柱入力⇒2階垂れ壁入力

壁長
・単独の壁はW=900以上で入力
※900グリッド統一のため600でも入力しない。(資料編参照。)
・壁は確認できる限り、柱位置でくぎって入力。ただし、900グリッド未満にはしないこと。

土壁
・土壁は柱寸法とちり寸法より塗厚を想定する。
・乾式で仕様不明の場合は「0無し」とする。

筋交い
・筋交い金物が確認できないときは端部金物なしで入力
・筋交いは**図面に記載あるところは現地を両合し入力** (筋交いのある・なしではなく壁があり筋交いが入っている可能性が高ければありとする)。**図面のない場合は目視確認できたところのみ入力**。寸法不明のときは15×90以上金物なしとして入力

※筋交いの有無については診断員の判断となるが、図面がある場合は現地調査にて概ね図面が信用できるものかを判断する。相違箇所がわずかで信用できるものであると判断されれば、図面上の筋交いはあるものとして入力する。図面と現場にかなりの相違があり信用できないと判断されれば目視で確認できたところのみ入力とする。

【補足】筋交いの「なし」、「不明」入力について
・筋交いが**ないことを確認**。 → 「なし」入力
・図面がなく、現地で筋交いの**有無が判断できない**。 → 「なし」入力
※原則、「不明」は使用しない。

開口
・有開口壁を耐力評価する場合は、垂れ壁 (高さ 360 mm以上) のみを有する掃き出し型開口壁、垂れ壁と腰壁を有する窓型開口壁 (開口高さ 600 mm~1200 mm程度) を入力する。ただし、あきらかに診断上耐震性がないと判断されるものは入力しないこと。

※ワンポイントアドバイス
・壁入力は修正、追加のとき、既に入力した壁上で右クリックし修正を選択すると仕様入力欄に入力済の仕様が入力されますので、それを利用し再入力すると入力手間が省けます。

・(財)日本建築防災協会のホームページに本診断法に関する“質問・回答集”が掲載されていますので、こちらも参考にしてください。また、診断プログラム“WEE2012”に関するバージョンアップ等の情報も随時、同ホームページに掲載されていますので確認してください。

⑥ 「2012年改正版 木造住宅耐震診断プログラム“WEE2012”（一般診断法）の作成について
【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P25～参照】

壁入力例

※湿式（土壁の有無）が確認できないときは乾式で入力

【湿式（土壁あり）**外壁**の入力例】

	仕様	入力
外面 (上段)	外部：モルタル塗	モルタル塗り壁 ※下地があきらかな場合はその下地仕様を入力
	外部：窯業系サイディング	窯業系サイディング ※下地があきらかな場合はその下地仕様を入力
	外部：金属系サイディング 角波鉄板貼 下見等	無し （それ自体では耐力評価しない） ※下地があきらかな場合はその下地仕様を入力
芯	筋かい：目視または図面確認	筋かい ※図面に記入がある場合、現地寸法確認したところは当該寸法入力 ※寸法不明のときは15×90以上で入力
外面 (下段)	内部：合板・ボード貼等	土塗り壁 ※湿式（土壁あり）の場合、外面（下段）には土壁仕様を入力する ※柱寸法とちり寸法から土塗り壁の塗厚を算定する

【湿式（土壁あり）**内壁**の入力例】

	仕様	入力
外面 (上段)	内部：合板・ボード貼等	合板・ボード貼等の各仕様 を入力 ※不明なときは「0無し」とする
	内部：モルタル塗（浴室タイル貼等） 内部：ジュラク塗	下地 を入力 ※梁まで未施工・頭つなぎがない場合は 無し
芯	筋かい：目視または図面確認	筋交い 上記、 <u>外壁</u> の入力例と同じ
外面 (下段)	内部：合板・ボード貼等	土塗り壁 上記、 <u>外壁</u> の入力例と同じ ※土壁が梁まで未施工（7割未満）・頭つなぎがない等であきらかに耐力評価できないと判断される場合は 無し

【乾式（土壁なし）**外壁**の入力例】

	仕様	入力
外面 (上段)	外部：モルタル塗	モルタル塗り壁 ※下地があきらかな場合はその下地仕様を入力
	外部：窯業系サイディング	窯業系サイディング ※下地があきらかな場合はその下地仕様を入力
	外部：金属系サイディング 角波鉄板貼 下見等	無し （それ自体では耐力評価しない） ※下地があきらかな場合はその下地仕様を入力 ※下地が不明なときは「0 無し」とする
芯	筋かい：目視または図面確認	筋かい ※図面に記入があるとき、現地寸法確認したところは当該寸法入力 ※寸法不明のときは 15×90 以上で入力
外面 (下段)	内部：合板・ボード貼等	合板・ボード貼等の各仕様 を入力 ※乾式で仕様不明の場合は「0 無し」とする

【乾式（土壁なし）内壁の入力例】

	仕様	入力
外面 (上段)	内部：合板・ボード貼等	合板・ボード貼等の各仕様を入力 ※乾式で仕様不明の場合は「0無し」とする。
	内部：モルタル塗（浴室タイル貼等） 内部：ジュラク塗等	下地を入力 ※仕様不明の場合は「0無し」とする。 ※梁まで未施工・頭つなぎがない場合は無し
芯	筋かい：目視または図面確認	筋かい 上記、外壁の入力例と同じ
外面 (下段)	内部：合板・ボード貼等	合板・ボード貼等の各仕様を入力 上記、外壁の入力例と同じ

※内壁の場合は小屋裏、天井裏において梁まで施工されていることを確認して入力すること（合板、石膏ボード張りを除く）。

※土壁評価をする場合は、小屋裏、天井裏において、梁まで施工されているか、7割以上施工されているかを確認して入力すること

※壁の仕様が確認できても、明らかに耐力評価できないと判断されるもの（規定の厚さが足りない、庇等で切り欠かれている、換気扇の穴があいているなど）は入力しない。

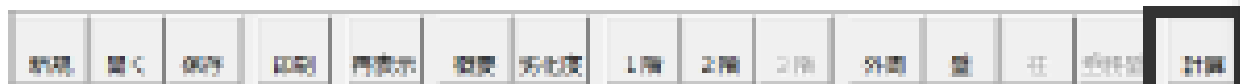
※その他（別添仕様入力）は原則、使用しない。

⑥「2012年改訂版 木造住宅耐震診断プログラム“WEE2012”（一般診断法）の作成について

【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P27参照】

(7) 保存・計算

診断のタブを押し診断報告書出力する。



【注意!!】

必ずUSB対応のメモリー媒体等に直接保存し出力する。

保存ファイル名は半角で診断受付番号とする。 (例 20230001.■12)

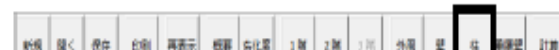
上記のように外部メディアに保存し印刷すると、

Wee2012 打ち出しの表紙下段のパスとファイル名が **○: ¥ (受付番号) .■12** と表示される。

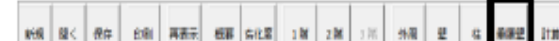
※診断データが診断員の手元に残っていないことを確認するものです。

(6) 柱・垂れ壁入力 (方法2の場合のみ)

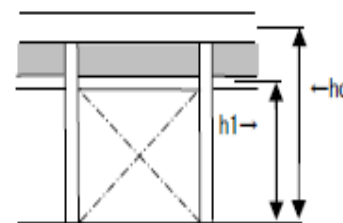
柱入力



壁入力



柱の小径(mm)		
<input checked="" type="radio"/> D<120	<input type="radio"/> 120≦D<135	<input type="radio"/> 135≦D<150
<input type="radio"/> 150≦D<180	<input type="radio"/> 180≦D<240	<input type="radio"/> 240
垂壁・壁の基準耐力(kN/m)		
<input checked="" type="radio"/> 垂壁のみ	<input type="radio"/> 1以上2未満	<input type="radio"/> 4以上5未満
<input type="radio"/> 垂壁・壁壁	<input type="radio"/> 2以上3未満	<input type="radio"/> 5以上6未満
	<input type="radio"/> 3以上4未満	<input type="radio"/> 6以上



一般診断法では垂れ壁を 柱脚から横架材心までの高さ $h_0=3.00m$ 、柱の曲げ区間長さ $h_1=2.25m$ 、柱の樹種 スギ(曲げ基準強度: $F_b=22.2Mpa$)を想定して、耐力を定めています。極端にそれと異なる場合は適用できません。

※平面図には、柱寸法、垂れ壁位置、厚さ、高さ h_0 ・ h_1 (上記参照)を記入する。

⑥ 「2012年改正版 木造住宅耐震診断プログラム “WEE2012” (一般診断法) の作成について
 【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル(事務編) P28参照】

(8) 最終ページ入力

総合評価(診断結果)

【地盤】

地盤	施されている対策の程度	記入	注意事項
よい・普通の地盤		○	
悪い地盤			
非常に悪い地盤 (埋立地、盛土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている		
	抗基礎である 特別な対策を行っていない		

【地形】

地形	施されている対策の程度	記入	注意事項
平坦・普通		○	
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁		
	石積み		
	特別な対策を行っていない		

【基礎】

基礎仕様	状態	記入	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全		周囲はコンクリートブロック積みの基礎のため、耐力壁評価をしませんでした。
	ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全	○	
	軽微なひび割れが生じている		
	ひび割れが生じている		
玉石基礎	足固めあり		
	足固めなし		
その他(ブロック基礎等)			

【上部構造】

上部構造評点のうち最小の値	0.30 (倒壊する可能性が高い)
注) 1.5以上:倒壊しない、1.0~1.5未満:一定倒壊しない、0.7~1.0未満:倒壊する可能性がある、0.7未満:倒壊する可能性が高い	

【計算メッセージ】

メッセージがありません。

【その他注意事項】

モジュールが一部の壁では850mmであったため、診断においては面材や筋交いの評価を入力しませんでした。長さ600mm以上の壁は面材の耐力評価が出来る為、上部構造評点はもう少し上がると思われます。

『診断報告書作成シート』と同じ内容を直接入力(チェック)する。

地盤・地形・基礎・その他注意事項があれば直接入力する。

! 入力内容に間違いがないか、『平面図』、『写真』、『診断報告書作成シート』を見比べて確認する!

(9) 印刷
 モノクロ印刷、片面コピーで出力。

⑦ 「WEE2012」 計算結果を「診断報告書作成シート」に転記入力

【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P29参照】

	A	B	C	D
127	【診断結果入力】			
128	診断プログラム出力「3. 必要耐力の算出結果」			
129	階	A 床面積	Qr 必要耐力	
130	2階	49.69	38.76	
131	1階	67.90	95.74	
132	診断プログラム出力「8. 上部構造評点」			
133	診断方向	壁・柱の耐力 Qu (kN)	配置などによる低減係数 eKf	劣化度 dK
134	2階X方向	21.38	0.88	0.76
135	2階Y方向	25.19	0.62	
136	1階X方向	44.92	0.86	
137	1階Y方向	46.80	0.89	
138	※「劣化度 dK」が「0」の場合は、劣化による低減係数の値として入力してください。			
139				

3. 必要耐力の算出

A : 床面積 (㎡)
 Qr : 床面積当たりの必要耐力 (kN/㎡)
 Qs : 積算用必要耐力 (kN/㎡)
 Z : 地域係数
 α : 地盤による増係数
 β : 形状増係数
 γ : 近隣建物の影響係数
 Qr : 必要耐力 (kN)

階	A	Qr	Qs	Z	α	β	γ	Qr
2	49.69	0.78 + 0.00	1.0	1.0	1.00	1.00	1.0	38.76
1	67.90	1.41 + 0.00	1.0	1.0	1.00	1.00	1.0	95.74

8. 上部構造評点

階	方向	壁・柱の耐力 Qu (kN)	配置などによる 低減係数 eKf	劣化度 dK	保有する耐力 eQu=Qu×eKf (kN)	必要耐力 Qr (kN)	上部構造評点 eQu/Qr
2	X	21.38	0.88	0.76	14.22	38.76	0.36
	Y	25.19	0.62	0.76	11.90	38.76	0.30
1	X	44.92	0.86	0.76	29.23	95.74	0.30
	Y	46.80	0.89	0.76	31.66	95.74	0.33

劣化度による低減係数 dK = 1 - (劣化点数 / 存在点数) = 0.76

6-3 診断結果のまとめ（「Wee2012」計算結果を「名古屋市耐震診断報告書作成シート」へ入力）

(1) 『Wee2012』計算結果を『診断報告書作成シート』に転記入力

診断プログラム『Wee2012』計算結果出力の

3. 必要耐力の算出：床面積・必要耐力

8. 上部構造評点：壁・柱の耐力・配置などによる低減係数

を『診断報告書作成シート』に転記入力する

⑦ 「WEE2012」計算結果を「診断報告書作成シート」に転記入力
 【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P30参照】

140	【各種協議経過】 診断報告までの間に申込者や市役所との間で協議した内容を入力			
141	協議先	担当	協議内容	協議年月日
142				
143				
144				
145				
146				
147				
148	【診断結果】			
149	診断方向	Qr	edQu	edQu/Qr
150	2階X方向	38.76	14.33	0.36
151	2階Y方向	38.76	11.90	0.30
152	1階X方向	95.74	29.43	0.30
153	1階Y方向	95.74	31.73	0.33
154	【診断結果(精算法)】			
155	診断方向	保有耐力 edQu=Qu×eKf ×dK	床面積あたりの必要耐力(精算法) (KN/m2)	必要耐力(精算) sQr(kN)
156	2階X方向	14.33		
157	2階Y方向	11.90		
158	1階X方向	29.43		
159	1階Y方向	31.73		
160				
161	診断方向			
162	2階X方向			
163	2階Y方向			
164	1階X方向			
165	1階Y方向			
166				
167				
168				
169				
170				
171				

各種協議経過
 審査会までの間に市役所等と診断方法について協議した内容を入力。(報告書には出力されず、出力チェック表に記載され、審査時に確認。)

8. 上部構造評点

階	方向	壁・柱の耐力 Qu (kN)	配置などによる 低減係数 eKf	劣化度 dK	保有する耐力 edQu=Qu×eKf×dK	必要耐力 Qr (kN)	上部構造評点 edQu/Qr
2	X	21.38	0.88	0.76	14.22	38.76	0.36
	Y	25.19	0.62	0.76	11.90	38.76	0.30
1	X	44.92	0.86	0.76	29.23	95.74	0.30
	Y	46.80	0.89	0.76	31.66	95.74	0.33

平屋の場合、2階の入力は空欄のまま。

⑦ 「WEE2012」計算結果を「診断報告書作成シート」に転記入力
 【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P30参照】

177	項目	アドバイス	注意事項	
178	壁量	有効な壁の量が不足で、配置も偏っています。バランスよく既設壁の補強を行ってください。	各該当項目を選択 または、必要に応じて文章を修正	
179	金物	柱と土台、柱と梁の接合金物が不足しています。地震時にこれらが抜け落ちる可能性がありますので金物補強を行ってください。		
180	床組	2階の床に火打ち材が無く、床組みの強さが不足しています。補強を考慮してください。		
181	基礎	美筋基礎に亀裂があり、やや危険な状態と思われます。基礎の補強をお勧めします。		
182	劣化	無し	各項目の劣化が、そのままにしておくと、構造躯体に著しく影響を与え場合「有」を選択。	
183		無し		土台
184		無し		柱
185		有		外壁
186		有		浴室
187	その他		雨漏れ	
188		伝統構法	伝統構法の場合は自動表示	

調査時の特記事項や工事に向けたアドバイス
 各該当項目を選択、または必要に応じて文章を記入。

(2) 『診断報告書作成シート』の保存

必ずUSB対応のメモリー媒体等に直接保存する

保存ファイル名は半角で診断受付番号とする (例 20230001.xlsx)

⑧「診断報告書作成シート」の出力、印刷・診断報告書の構成
【令和5年度名古屋市
民間木造住宅耐震診断
マニュアル（事務編）
P31参照】

(3) 『診断報告書作成シート』の出力、印刷

“●報告書印刷”のシートを選択し、プリンタの設定を**白黒印刷**とし報告書を印刷。

※伝統工法 **方法2** の場合は、『診断報告書作成シート』の“構造形式”で、
伝統工法 **方法2** を選択すると、自動的に、“●報告書印刷”が、伝統工法用になります。

(4) 写真の準備

撮影した写真を『現況写真雛形』(Word)に添付する。

※受付番号の入力を忘れない！

(データは事務所協会名古屋支部 HP に掲載)

カラー印刷する。(片面)

(5) 報告書の体裁を整える。

●診断報告書の構成 ※すべて片面印刷

- ① 『診断報告書作成シート』(モノクロ出力)
- ② 平面図 A4サイズ内におさめること
※平面図のみ2部提出してください。
- ③ 写真(カラー出力)
- ④ 診断プログラム『Wee2012』

上記をクリップで止めて1部提出

※ホチキスで止めない(あとでスキャンするため)

⑧「診断報告書作成シート」の出力、印刷・診断報告書の構成
【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P31参照】

(6) USBの準備 以下①、②のみ入れる。

① 『診断報告書作成シート』(Excel)

※『診断報告書作成シート』は必ず「Excelブック(*.xlsx)」形式とする。

② 診断プログラム『Wee2012』のデータ

※写真や平面図等、上記2つ以外のものは入れない。

(審査会でUSBは空にして返却します。他のデータが入っていても、削除します。)

【注意】USBには、診断員名または診断員番号を必ず記載すること。

【注意】診断データは個人情報です。

提出データ以外は手元に残さないよう取扱いに注意！

⑨ 「出力チェック表」で内容を確認

【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P32参照】

(7) 『★★★出力チェック表★★★』で内容を確認する。

※“出力チェック表”は審査会時に提出する。

★★★出力チェック表★★★

名古屋市ver.12.3.2(県Ver.4.1.3)

在来軸組構法(方法1)

※この出力は診断プログラムと照合するためのチェック表です。

提出前に確認、照合し審査、提出時には必ず提出してください。

受付番号	20230000
申込者	名古屋太郎
診断員	03風-0000 耐震次郎
調査年月日	2023年4月1日
※審査員	※審査員確認欄
	<input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 軽微な修正
	<input type="checkbox"/> 問題あり(再提出が必要)

1.建物概要

①建物名称	名古屋市郡
②申込者連絡先	123-456-7890
③所在地	名古屋市東区〇〇町△△
④用途	専任住宅
⑤建築年度(着工日)	昭和50年(1975年) 築10年以上 ※Wee2012は竣工年
⑥建物仕様	非常に重い建物 ※屋根仕様 土葺瓦屋根 (参考) ※外壁仕様 鉄板+ガラス+ふた等(上層)

⑦RC造の地階	無	状況	-
⑧地域係数 Z	1.0	※本造住宅の大部分がRC造の上に建てる時は必要耐力量増1.2	
⑨地階による割増	1.0		
⑩形状割増係数	I階= 1.00	⑪積置深さ	無し(1m未満)
⑫基礎仕様	III:その地の基礎(ブロック基礎など)		
⑬床仕様	III:火打らなし	(吹き抜け)	なし
⑭主要な柱の径	120mm未満		
⑮接合部仕様	IV:はぎ差し、釘打ち、かすがい等		
※パスとファイル	※Y	20230000	ver12

3.必要耐力の算出

階	A		Qr
2		×(=
1	50.00	×(= 31.80

提出図書の確認	診断員	審査員
依頼票		
平面図-2部		
報告書		
データ		
※図説参照チェック表		

青字表示されている内容は必ず『Wee2012』の出力、『依頼票』と合っているか、確認する。

審査会前に、提出図書を確認し、○を記入する。

7.劣化度による低減係数

部位	劣化事象	存在点数	劣化点数
屋根葺き材:金属板		2	
屋根葺き材:瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がない	2	
軒・呼び樋	変色、さび、割れ、ずれ、欠落がない	2	
破損	変色、さび、割れ、ずれ、欠落がない	2	

⑨「出力チェック表」で内容を確認

【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P32参照】

7.劣化度による低減係数

上記項目を確認し提出時に○を記入してください。

部位	劣化事象	存在点数	劣化点数
屋根葺き材：金属板		2	
屋根葺き材：瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がない		
軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がない	2	
破種	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がない	2	
外壁仕上げ：木製板、合板			
外壁仕上げ：窯業系サイディング		4	4
外壁仕上げ：金属サイディング			
外壁仕上げ：モルタル	こげ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある		
露出した躯体			
バルコニー手すり壁：木製板、合板			
バルコニー手すり壁：窯業系サイディング			
バルコニー手すり壁：金属サイディング			
バルコニー手すり壁：外壁との接合			
バルコニー床排水			
内壁：一般室内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがない	2	
内壁：浴室のタイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがない	2	
内壁：浴室のタイル壁以外			
床面：一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	2	2
床面：廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがない	1	
床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がない	2	
合 計		19	6
劣化度による低減係数		0.70	

8.上部構造評点

階	方向	上部構造評点
2	X	0.23
	Y	0.18
1	X	0.23
	Y	0.26

判定値

0.18

【各種協議経過】

※注意事項

「WEE計算書」の内容の転記に相違が無い事を診断員は「耐震診断審査チェック表」を使用して必ず確認して審査会場へお越しください。

耐震診断報告書の作成業務は**診断員の責務**です。

再審となりますと申込者にご迷惑をお掛けすることになりますので**診断員は責務の重大さを重んじて業務を実行して下さい。**

7 審査会前（提出前）のチェック内容

報告書の内容を確認

審査会前（提出前）には『耐震診断審査チェック表』で確認のうえ、審査会に提出する。

※審査時に診断員①欄にチェックがないものは審査を行いません。

※審査員は主に『耐震診断現地チェック表』、『平面図』と『Wee2012』、『報告書作成シート』に相違がないか確認します。自身で今一度ご確認ください。

《再提出となる大きな訂正》

- 診断プログラム『Wee2012』、『診断報告書作成シート』は最新バージョンを使用しているか。
- 図面が有るのに仕様不明で入力されている等、根本的な間違いはないか。
- 『平面図』と診断プログラム『Wee2012』の壁配置等、大きな間違いがないか。
- モジュールを確認 900～1,000 で行っているか。
- 診断プログラム『Wee2012』の壁入力は入力ルールにのっとっているか。
基本は上段：外壁又は内壁ボード、中絶：筋交い、下段：土壁又はボード。
- 診断プログラム『Wee2012』の壁強さ倍率がルールに従い入力されているか。
- 壁仕様、筋かいの有無が反映されているか。

以上の大きな訂正があったときは審査終了し再審査となります。

《出力チェック表と診断プログラム『Wee2012』出力データの相違（軽微な訂正）》

- 表紙の方法1、方法2の照合
- 1. 建物概要の入力があるか。
- 3. 必要耐力の算出の入力があるか。
- B. 上部構造評点の入力があるか。

《軟弱地盤割増の確認》

- 地震ハザードマップで軟弱地盤割増がかかるか確認

《依頼票との相違》

- 依頼票に記載事項と間違いがないか。

※申込者の漢字間違いに注意！

3. 審査時間予約と審査の流れ（診断結果報告書の提出、訂正、報告書の受領）

(1) 診断依頼時に割り振られた審査予定日までに診断結果報告書をまとめる。

提出に必要な書類等をチェックしてください。

- 木造住宅耐震診断結果報告書（申込者報告用を兼ねる） 1部

※クリップでまとめた状態（ホッチキス等で留めない）で持参すること

- USB（中身は【No2012】、【診断報告書作成シート】のみ）

- 出力チェック表 1部

- 審査用平面図 **2部**

※原設計図をコピーして利用する場合は設計者名等が入らないようにすること

- 耐震診断現地チェック表

- 耐震診断審査チェック表

※審査時に診断員①欄にチェックがないものは審査を行いません。

- 診断依頼票など個人情報に関する文書の返却は、審査会場で行うので必ず持参する。

⑩基礎の鉄筋の有無に関する判断について

耐震診断がスタートした当初の講習会等で基礎の鉄筋の有無に関しては、1971年（昭和46年）以前の建物は無筋コンクリート造基礎が多いとの事でしたが、名古屋市木造住宅基礎有筋化指導方針（昭和61年9月1日から）が実施され、重点指導区域と指導区域が定められ、重点指導区域の地域は基礎の有筋化を特に指導する必要がある区域となっています。名古屋市の西部の地域はこの旨を考慮し鉄筋の有無を判断して頂きたい。

耐震診断の場合は、判断に困難な場合は**不利側**で考えるのが原則とされています。診断員は現況状態の目視確認にて判断して下さい。なお、審査員は、診断員の責任のもとに診断員が判断した有無に対して診断員の判断を優先することを原則に審査する。

名古屋市木造住宅基礎有筋化指導指針

第1 (趣旨)

この指針は、木造住宅の基礎有筋化に関する指導方針を定めることにより、地震時における木造住宅の安全性の確保を図ることを目的とする。

第2 (重点指導区域等)

この指針において、次の区域を定める。

- 一 重点指導区域
- 二 指導区域

2 重点指導区域は、基礎の有筋化を特に指導する必要がある区域とし、指導区域はその他の市内の区域とする。

3 第1項の重点指導区域の範囲は、別図の他、建築に際し、一メートル以上の盛土をする建築敷地とする。

第3 (対象建築物)

この指針による指導の対象となる建築物は、木造の住宅及び兼用住宅の新築、並びに同用途にかかるもので基礎工事に及ぶ増築又は改築とする。ただし、平屋建の建築物で延べ面積が五十平方メートル以内のものについてはこの限りでない。

第4 (基礎有筋化の指導等)

第3に定める建築物の新築、増築又は改築にあたり、第2の第1項第一号の区域にあつては、基礎を一体の鉄筋コンクリート造の布基礎とし、構造上有効な配筋となるよう重点指導するものとする。又、同第二号の区域にあつては、同様の基礎有筋化を指導するものとする。

第5 (添付図書)

建築主は、第3に定める建築物の新築、増築又は改築にあたり、建築基準法第6条第1項の規定により建築主事の確認を受ける場合、確認申請書の17、その他必要な事項欄に基礎の鉄筋の有無を記載するものとし、特に第2の第1項第一号の区域にあつては、確認申請書に基礎伏図及び基礎にかかる構造詳細図を添えるものとする。

付則

この指針は、昭和61年9月1日から実施する。

別図 重点指導区域 ([] 部分)



⑪ WEEの外周入力の方について

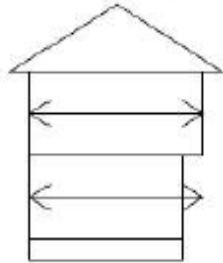
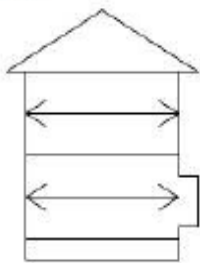
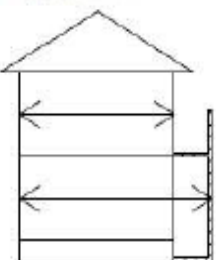
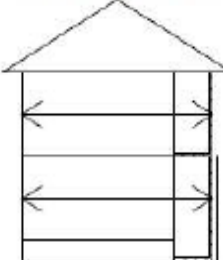
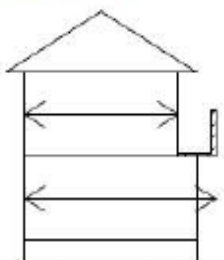
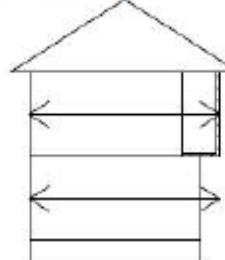
【令和5年度名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（資料編）P5参照】

屋根の水平力荷重は支える2階の壁が負担し、2階の水平力荷重を1階の壁が負担しているとの考え方で「基準法の壁量計算」と同じ考え方です。建物にかかる水平力の負担面積を決めているのが外周入力です。

例えば、アパート等の廊下部分の水平力は木造部分が負担しているものとみなして入力をする事としていますが、完全に独立（軽量の床製なアルミ既製品ベランダなど）して木造部分に水平力の負担が無ければ別構造と考え、入力は不要としています。

※見上げ図で入力する。

4. “Wee2012”の外周入力について

外周入力範囲 ←→			
<p>① 2階オーバーハング</p>  <p>○ 1m以上のオーバーハングは診断対象外</p>	<p>② 出窓</p>  <p>○ 出窓は外周入力に含まない</p> <p>○ 建築基準法上延べ床面積に含む出窓は、外周入力に含む</p>		
外部鉄骨階段		構造が一体のバルコニー	
<p>③ 1階柱あり</p> 	<p>④ 1階2階柱あり</p>  <p>鉄骨筋かいは参入しない</p>	<p>⑤ 1階柱なし</p>  <p>木バルコニーの手すりがアルミでも同じ</p>	<p>⑥ 2階柱あり</p> 

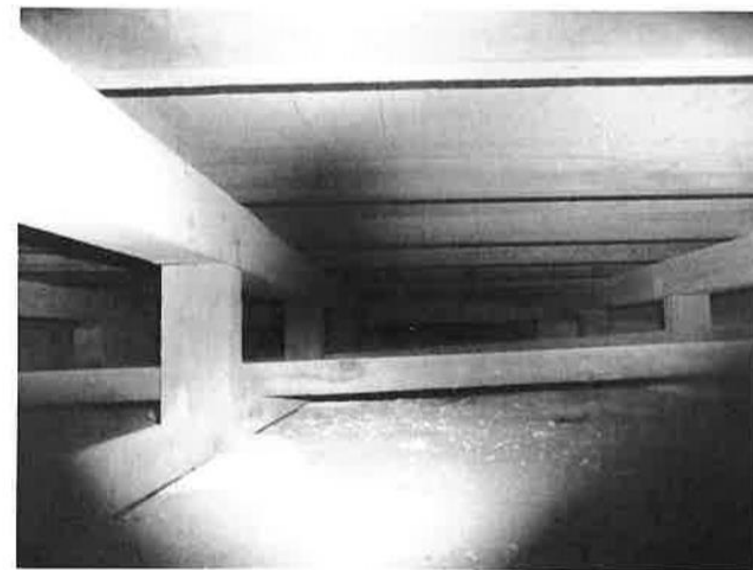
写真の劣化箇所や確認事項の記入漏れ



4：北側外壁部分写真
外壁の亀裂（クラック） 目視確認



17：小屋裏部分写真
火打ち材設置 目視確認
土壁なし 目視確認



19：床下部分写真
床下 根がらみ抜き材設置 目視確認

WEEと図面の整合性について

- WEEと図面の作成後、再チェックのをお願いします。
- 図面には掃出し・窓・欄間・非耐力壁の記載をお願いします。
- 外壁材が複数な場合は範囲の記載をお願いします。
- 増築範囲と増築年代の記載をお願いします。
- 玄関と土台のない勝手口は耐力上有効な開口部ではない掃き出しとなる。
 - 耐力壁と隣接し横架材と柱に囲まれ、下がり壁がある場合は耐力上有効な開口部となる。

その他

- 外枠は不要です。

診断書作成時に迷ったら、

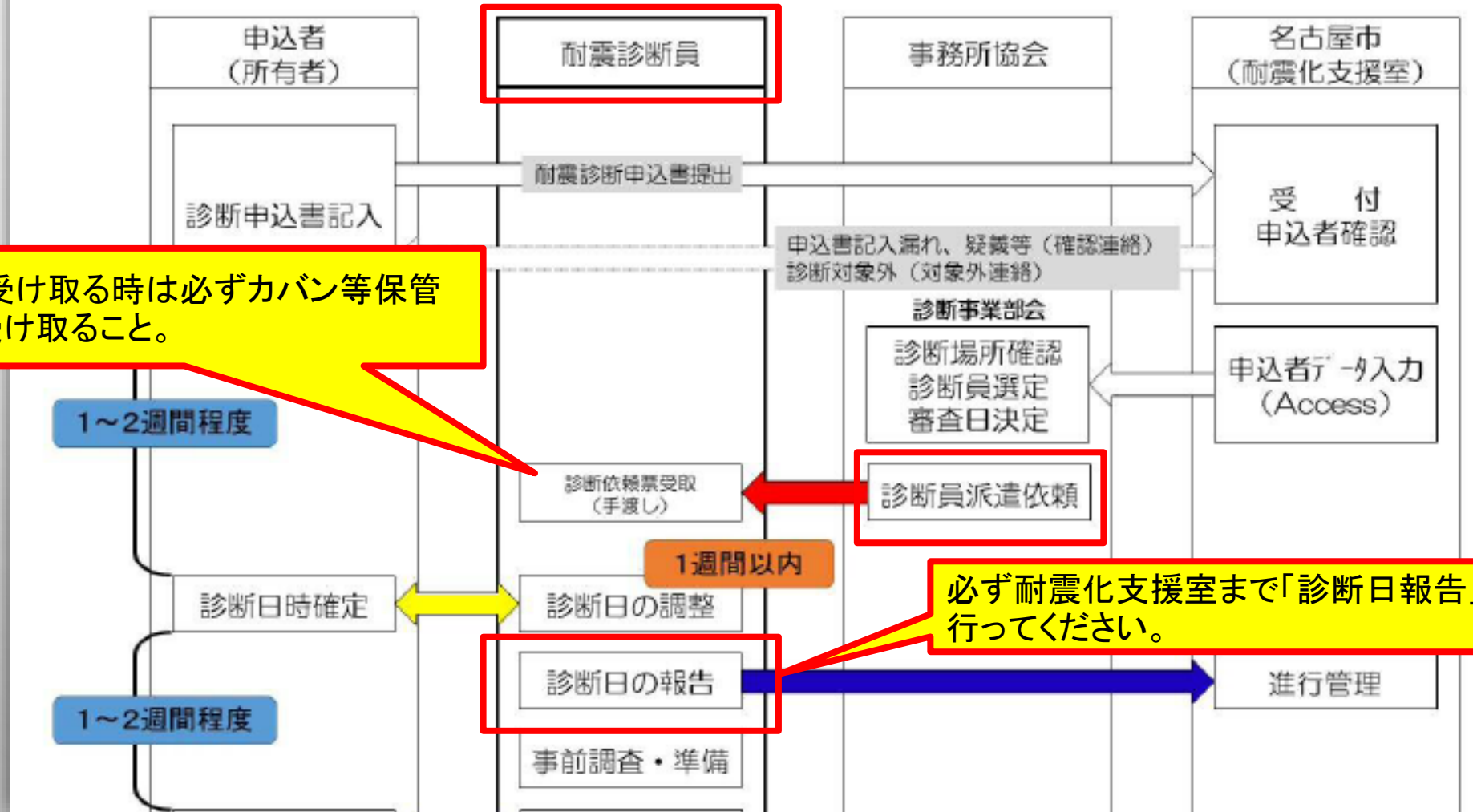
危険側となるように作成をお願いします。

②耐震事業部 審査員 佐藤 泰久

診断業務

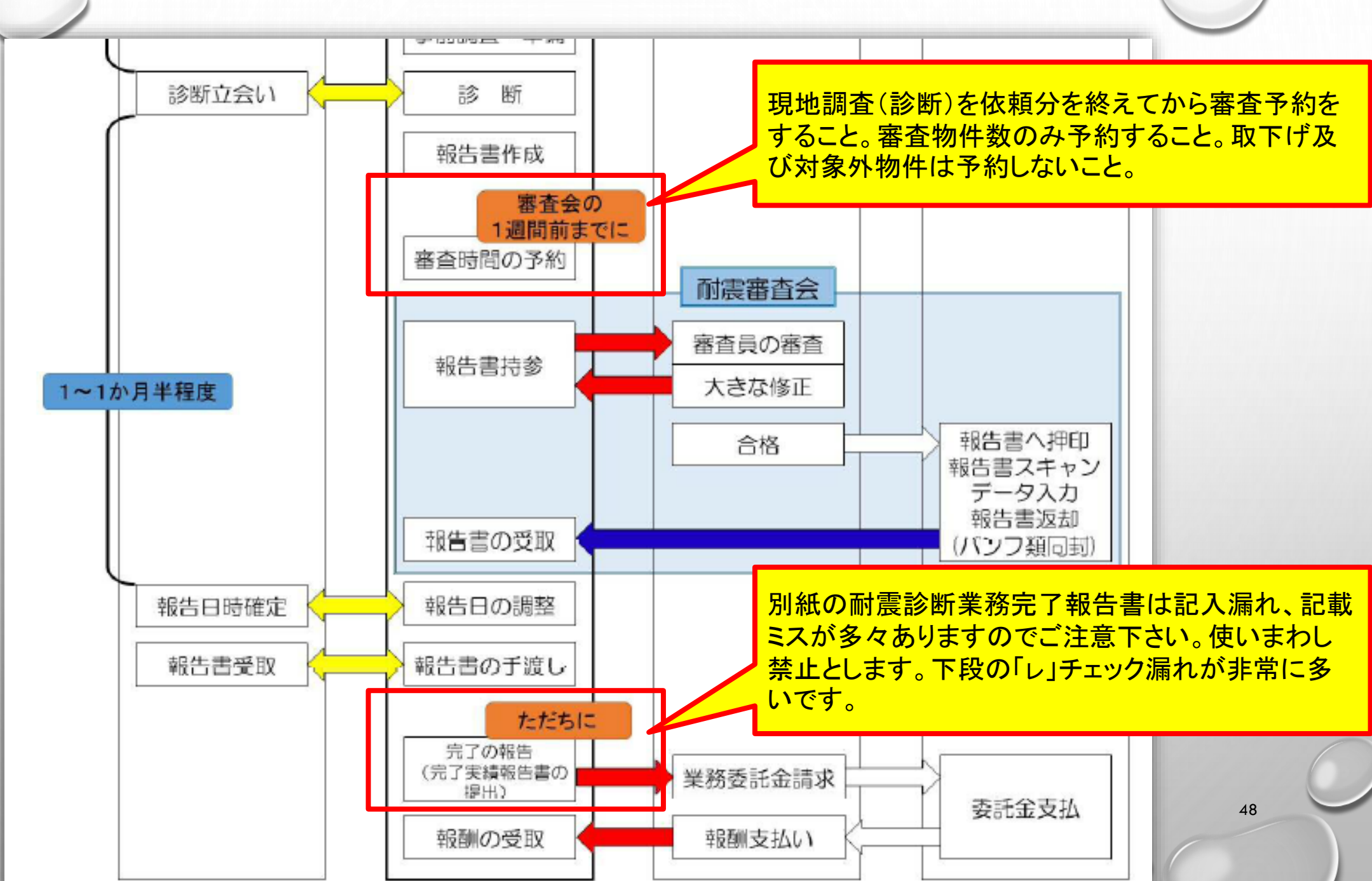
依頼票受け取りから現地調査時の注意点
審査予約、審査時、耐震診断業務完了報告書までの注意点

名古屋市民間木造住宅耐震診断事業フロー



診断依頼票を受け取る時は必ずカバン等保管できる状態で受け取ること。

必ず耐震化支援室まで「診断日報告」を行ってください。



【様式1-1】診断依頼票

申込者の住所、氏名、建築年等は現地にて必ず確認し、下記の記載事項に誤りがあれば訂正してください。個人情報です。取扱に注意して下さい！《要返却！》

コピー禁止

(年 月 日版)

登録番号

診断員

登録TEL

登録FAX

02尾-0000

耐震 太郎 様

052-000-0000

052-000-0000

＜注意・連絡等＞

①今回依頼分の審査予定日は、**2022年4月1日**です。**審査日の1週間前まで(時間厳守)**に事務所協会ホームページにて審査時間の予約をお願いします。

②この依頼票を受領後、**1週間以内**に申込者と現地診断日を調整し、名古屋市耐震化支援室(972-2921)まで診断予定日を報告してください。最近、現地診断時の遅刻についての苦情が発生しています。**依頼者との約束時間は厳守**をお願いします。

③申込者が診断を取り下げる場合、現地診断で対象外となった場合は、ただちに下記連絡先(石田)及び名古屋市耐震化支援室まで連絡してください。審査予定日の変更(キャンセル)は下記連絡先(北川)まで連絡してください。

※診断辞退による診断依頼票、案内図の返送先 〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1-1 名古屋市住宅都市局耐震化支援室支援係

【受付番号】	【受付日】	【申込者氏名】	【フリガナ】	【申込者TEL】	【元号】	【建築年】	【利用形態】	【審査済】
20220000	2022年3月1日	名古屋次郎	ナゴヤジロウ	090-000-0000	S	36	専用	<input type="checkbox"/>
【診断員登録区】	【診断予定日】	【申込者住所】		【その他連絡事項】				
港		名古屋市 O区△町・・・		改修関心あり、				
		【住宅所在地】						
		住所に同じ						
		【住宅床面積】	123 m ²					

処理済

2021年10月22日 作成 連絡先

〒460-0003 名古屋市中区錦1-18-24 (HF伏見: 45階) 愛知県建築士事務所協会 名古屋支部

事務所協会ホームページ <http://www.ajknagoya.com>

石田 (TEL) 又は北川 (TEL)

青木美幸 TEL:

又は飯田真寿郎 TEL

報告
書作成に
関する
問合せ

1. 耐震診断業務の依頼

- (1) 事務所協会から電話又はメールで診断の依頼を受け、診断を行う時は、診断依頼票を東照ビル2階の審査会場で受け取る。審査会場で受け取れない場合は後日、名古屋市で受け取る。

※依頼票はすみやかに受け取りに来てください。

診断を辞退したい場合は、早急に事務所協会に連絡する。

- (2) 依頼票には審査会予定日が記載されている。

審査予定日の都合が悪く、変更したい場合は、事務所協会に連絡する。

●申込者との調整・連絡事項の要点

- 名古屋市の依頼で、専門家による無料耐震診断として現地調査に行くこと。
- 現地調査（2時間程度）の日時の調整および立会いの依頼
- 設計図面などがある場合は用意を依頼
- 床下、天井裏も点検できるように片付けを依頼
- 日程の変更等のため連絡先電話番号の通知
- 貸家や長屋、共同住宅の場合、居住者（借家人）の同意を取っている旨の確認
- 現地調査の住宅の所在地を確認

- 床下・天井裏が目視可能な場合は、必ず調査をすること。診断員の勝手な判断で省略することは、診断業務の信頼を損なうおそれがあります。誠意を持って対応してください。

2. 現地調査日時などの確認

- (1) 診断依頼から **1週間以内（出来るだけ早めに）** に、以下の連絡を行う。

●申込者に直接電話をして、現地調査の日時などを1週間程度の期間内に調整して決定する。

●次のような連絡内容事例により、申込者と電話にて現地調査の日程調整を行う。

※依頼票の「その他連絡事項」に連絡先が記入されている場合はそちらに連絡する。

※申込者から、連絡が来ないという連絡が市に入るため、**早めに連絡をお願いします。**

[改訂（第4版） 愛知県木造住宅耐震診断マニュアル P8参照]

《日曜調整》

私は、名古屋市から委託された愛知県木造住宅耐震診断員の〇〇と申します。

先日、名古屋市に専門家による無料診断を希望された件につきまして、今回ご自宅に伺って現地調査を行いたいと思います。

現地調査は最低2時間程度で行いますが、立会いをお願いします。〇月〇日の〇時から行いたいと思いますが、ご都合はいかがでしょうか。

《用意しておいていただくこと》

現地調査に伺う際には、ご自宅の建築確認申請の書類や、設計図等の資料がありましたらご用意ください。

また、現地調査では、床下や天井裏の点検・確認も行います。天井裏点検口は、一般的には押入れの上にあります。押入れを片付けて、見られるようご協力をお願いします。事前に点検口がわからない場合は、当日、私が点検口の場所を確認します。

私の連絡先電話番号は、〇〇〇—〇〇〇—〇〇〇〇です。日程の変更など必要でしたらお電話下さい。

念のため、また現地調査の前日にお電話します。では、よろしくお願ひします。

「新型コロナウイルス感染症」予防対策に関することもお伝えし対応することは厳守事項

(日曜調整)

私は、名古屋市から委託された愛知県木造住宅耐震診断員の〇〇と申します。

先日、名古屋市に専門家による無料診断を希望された件につきまして、今回ご自宅に伺って現地調査を行いたいと思います。

現地調査は最低 2 時間程度で行いますが、立会いをお願いします。〇月〇日の〇時から行いたいと思いますが、ご都合はいかがでしょうか。

(用意しておいていただくこと)

現地調査に伺う際には、ご自宅の建築確認申請の書類や、設計図等の資料がありましたらご用意ください。

また、現地調査では、床下や天井裏の点検・確認も行います。天井裏点検口は、一般的には押入れの上にあります。押入れを片付けて、見られるようご協力をお願いします。事前に点検口がわからない場合は、当日、私が点検口の場所を確認します。

私の連絡先電話番号は、〇〇〇—〇〇〇—〇〇〇〇です。日程の変更など必要でしたらお電話下さい。

念のため、また現地調査の前日にお電話します。では、よろしくお願いします。

(2) 日程調整の結果を名古屋市に電話連絡する。

●連絡内容

- 診断員名、診断員登録番号
- 申込者名、受付番号、診断日時

※休日などの都合で、あらかじめ連絡できなかった場合は後日すみやかに連絡する。

(3) 現地調査予定日の前日に申込者に再度電話をして確認する。

(4) 申込者の都合により、現地調査日程が先になる場合は、いつ頃ならば可能かを確認し以下のように対応する。

●現地調査日は決まったが、依頼票に記載のある審査予定日に間に合わない場合
市に現地調査日を報告し、新たな審査予定日を事務所協会に連絡（相談）すること。

●現地調査日がいつになるか分からない場合
市に一度連絡（相談）すること。

※申込者の中には高齢の方が多く、体調不良などにより現地調査を先延ばしする方もいます。先の見通しが見つからない場合は、一度取下げ等して、万事整った時点で再度申込みいただくよう促してください。

(5) 申込者から取下げの意思が伝えられた場合は、名古屋市、事務所協会の両方に電話連絡し、診断依頼票と住宅地図を名古屋市あてに返却する。

※依頼票等は個人情報になりますので、耐震化支援室に直接返却してください。
郵送による返却はしないようにしてください。

※申込者と連絡がとれない場合

1週間ほど粘ってみて連絡が取れない場合は、名古屋市に報告（相談）する。

注意：審査時に持参する。（厳守）

耐震診断現地チェック表

診断番号

1. 耐震診断を実施する建築物概要

所有者	(所有者確認) ・口頭確認 ・書面確認
建物名称	■
所在地	区 ■ 注意：依頼票内容と相違がないか必ず確認する。
用途	・専用住宅 ・(■)併用住宅 ・長屋 ・共同住宅
建築年度	明治・大正・昭和 年 ・着工 ・竣工 (口頭確認・書面確認)
構造形式	・在来軸組構法 (方法1) ・伝統構法 (方法2) 注意：現地調査実施前に名古屋市HPより閲覧。 「過去の地震を考慮した最大クラス」の部分で確認し記載する。

2. 耐震診断結果 (略)

3. 現地調査結果 (現地調査票)

建築物概要			
地震盤	地震ハザードマップによる想定震度 ・震度6強以上 ・震度6弱 ・震度5強以下 地震マップによる液状化可能性等 ・大 ・中 ・小 ・なし ・土砂災害危険箇所 対策 ・表層の地震改良を行っている ・杭基礎である ・特別な対策を行っていない		
地震の種類	・良い・普通 ・悪い ・非常に悪い (軟弱地震割増1.5) → ※概要チェック入力後に確認		
地形	・平坦・普通 ・かけ地・急斜面 → (・コンクリート擁壁 ・石積み ・特別な対策を行っていない)		
RC造の地階	有・無 ・木造建築物の一部がRC造の地階の上に載っている ・木造建築物の大部分がRC造の地階の上に載っている (必要耐力割増1.2)		
基礎	・鉄筋コンクリート基礎 → ・健全 ・ひび割れが生じている (0.3ミリ程度 ・以上・未滿) ・無筋コンクリート基礎 → ・健全 ・ひび割れが生じている (0.3ミリ程度 ・以上・未滿) ・玉石基礎 → ・足固めあり ・足固めなし ・その他の基礎 (ブロック基礎など)		
屋根仕様	・石綿スレート板、鉄板葺など ・葺瓦葺など ・土葺瓦屋根など	外壁仕様	・ラスモルタル (土壁・有・無) ・鉄板+グラスボード等 (土壁・有・無) ・サイディング (土壁・有・無)
平面の特徴形状割増係数	・短辺幅4m以上 (割増1.0) ・短辺幅4m未滿 (割増1.13) ・極端に変形→対象外	内壁仕様	・ボード貼り (土壁・有・無) ・ジュラック塗 (土壁・有・無)
建物の重さ	・軽い ・重い ・非常に重い → ※概要チェック入力後に確認		
床仕様	・I (合板) ・II (火打ち+荒板) ・III (火打ちなし又は確認不可能) ※ 4m以上の吹き抜け (・有 ・無)		
主要な柱径	・120mm未滿 ・120mm以上		
接合部	・I (平12建告1460号に適合する仕様) ・II (羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物CP-T、CP-L、込み粒) ・III (ぼぞ差し、釘打ち、かすがい等) 総2階建て俱全てが通し柱の場合 ・IV (ぼぞ差し、釘打ち、かすがい等又は確認不可能)		
使用履歴	増築 有・無 年 規模・状況 改築 有・無 年 規模・状況 補修 有・無 年 規模・状況 用途変更 有・無 年 規模・状況	注意：設計図書等で確認出来ない場合は必ず、所有者(申込者)に聞き取り調査を実施する。報告書平面図にその旨わかりやすく記載する。	
特記事項			

特殊構造・特殊工法の有無

スキップフロア等	有・無	混構造 RC+木造・S+木造等	有・無
ツーバイフォー工法	有・無	伝統構法型木造住宅部分	有・無
工業化住宅	有・無		有・無

④ 「耐震診断現地チェック表」について

【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル (事務編) P10参照】

The image shows a smaller version of the '耐震診断現地チェック表' form. Two red boxes highlight specific areas: one at the top right (the '注意' note) and one at the bottom right (the '使用履歴' table).

依頼票と相違ないか、確認する。

・所有者名が異なる場合は、名古屋市に連絡する。

※申込者は所有者に限られるため。

・用途、建築年は現地にて確認 (依頼票と異なっても可)。

【参考】

共同住宅：共用廊下など、共用部がある

長屋：共有部がない

設計図書等で確認できない場合は、必ず所有者(申込者)に聞き取り調査を実施。報告書平面図にその旨わかりやすく記載する。

設計図書等の調査		
関係図書	建築確認図書	有・無
	住宅金融公庫関連図書	有・無
現地建築物との相違	設計図書	平面・立面・軸組・基
	1階平面	2階平面
	有・無	有・無

注意：現地調査日程調整する際には必ず設計図書等の有無は所有者（申込者）に確認し当日ご用意して頂く様をお願いします。

部分点検調査票（評点に反映しない部分）・・・目視調査により、調査可能な部分について記入			
部位等	調査内容	コメント	
建物周囲の地盤条件	擁壁等の傾斜、亀裂等の有無	擁壁等有・無 亀裂等有・無	
構造耐力上主要な軸組等	柱	大きな欠き込み、割れの有無	不明/有・無
	梁	大きな欠き込み、割れの有無	不明/有・無
	桁	大きな欠き込み、割れの有無	不明/有・無
	筋かい等	筋かいの有無（・図面・目視・開取り）	不明/有・無
土台と柱	接合金物	不明/有・無	
柱と梁桁	接合金物	不明/有・無	
筋かい材	接合金物	不明/有・無	
床下部分	接合金物	不明/有・無	
梁と柱、差し鴨居	接合金物	不明/有・無	
筋かい端部	接合金物	不明/有・無	
水平剛性確保	2階床面又は小梁梁面	接合金物	不明/有・無
	吹抜け	接合金物	不明/有・無
下家、増築部	接合金物	不明/有・無	

注意：上記に記載の通り、目視調査の可能な部分について現地調査を実施し診断員の責任に於いて判断する。コメント欄には自身がどの場所で確認し判断したかを記載し審査の際に内容に相違がある場合に回答できる様にして下さい。

劣化度調査票					
部位	材料、部材等	存在	劣化事象	劣化	
屋根葺き材	金属板	有・無	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	有・無	
	瓦・スレート	有・無	割れ、欠け、ずれ、欠落がある	有・無	
種	軒・呼び樋	有・無	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	有・無	
	縦樋	有・無	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	有・無	
外壁仕上げ	木製板、合板	有・無	水浸み痕、こけ、割れ、抜け、ずれ、腐朽がある	有・無	
	窯業系サイディング	有・無	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	有・無	
	金属サイディング	有・無	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地突き、シール切れ	有・無	
	モルタル	有・無	剥離、ひび、割れ、欠落、粉砕、目地突き	有・無	
バルコニー	露出した躯体	有・無	水浸み痕、剥離、ひび、割れ、欠落、粉砕、目地突き	有・無	
	手すり壁	木製板、合板	有・無	水浸み痕、こけ、割れ、抜け、ずれ、腐朽がある	有・無
		窯業系サイディング	有・無	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある	有・無
	金属サイディング	有・無	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地突き、シール切れ	有・無	
外壁との接合部	有・無	外壁面との接合部に亀裂、開間、緩み、シール切れ・剥離がある	有・無		
床排水	有・無	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	有・無		
内壁	一般室	内壁、窓下	有・無	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある	有・無
	浴室	タイル壁	有・無	目地の亀裂、タイルの割れがある	有・無
	タイル以外	有・無	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある	有・無	
床	床面	一般室	有・無	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	有・無
	廊下	有・無	傾斜、過度の振動、床鳴りがある	有・無	
床下	有・無	基礎の亀裂や床下材に腐朽、蟻道、蟻害がある	有・無		

注意：劣化度調査は建物の現状を把握し所有者（申込者）へ報告する内容です。診断員の責任に於いて判断して下さい。全く劣化事象が無い事は希な状態であると思われます。診断対象建物は昭和56年5月以前の建物です慎重に判断して下さい。

部分点検調査票		
部位等	調査内容	
建物周囲の地盤条件	擁壁等の傾斜、亀裂等の有無	
構造耐力上主要な軸組等	柱	大きな欠き込み、割れの有無
	梁	大きな欠き込み、割れの有無
	桁	大きな欠き込み、割れの有無
	筋かい等	筋かいの有無（・図面・目視・開取り）
土台と柱	接合金物	
柱と梁桁	接合金物	
筋かい材	接合金物	
床下部分	接合金物	
梁と柱、差し鴨居	接合金物	
筋かい端部	接合金物	
水平剛性確保	2階床面又は小梁梁面	接合金物
	吹抜け	接合金物
下家、増築部	接合金物	

部分点検調査票

目視調査により、調査可能な部分について記入
コメント欄には自身がどの場所で確認し判断したかを記載する。

劣化度調査票

所有者へ報告する内容のため、診断員の責任において判断。（全く劣化事象がないことは稀。）

※『耐震診断チェック表』をもとに『診断結果報告書』を作成。

④「伝統構法の要素を含む場合」について

【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P11参照】

（8）伝統構法の要素を含む場合

『名古屋市 伝統構法等及び対象外報告書』を作成する。

The image shows a form titled '名古屋市 伝統構法等及び対象外報告書' (Nagoya City Traditional Construction Methods and Out-of-Scope Report Form). The form is divided into two main sections: '1. 伝統構法要素の有無' (Presence of Traditional Construction Elements) and '2. 対象外要素の有無' (Presence of Out-of-Scope Elements). The '1. 伝統構法要素の有無' section contains a checklist with three items, each with a '確認' (Check) column and a '備考' (Remarks) column. The first item is '伝統的な伝統構法型住宅' (Traditional traditional construction type housing). The second item is '部分的に伝統構法的な要素を含んだ住宅' (Housing partially containing traditional construction elements). The third item is '在来の増築がある場合' (Cases where existing additions exist). Below the checklist is a flowchart showing the process from '伝統的な伝統構法型住宅' to '伝統構法的な要素を含んだ住宅' and then to '在来の増築がある場合'. The flowchart also includes '確認' (Check) and '備考' (Remarks) columns. The '2. 対象外要素の有無' section contains a checklist with three items, each with a '確認' (Check) column and a '備考' (Remarks) column. The first item is '伝統的な伝統構法型住宅' (Traditional traditional construction type housing). The second item is '部分的に伝統構法的な要素を含んだ住宅' (Housing partially containing traditional construction elements). The third item is '在来の増築がある場合' (Cases where existing additions exist). Below the checklist is a flowchart showing the process from '伝統的な伝統構法型住宅' to '部分的に伝統構法的な要素を含んだ住宅' and then to '在来の増築がある場合'. The flowchart also includes '確認' (Check) and '備考' (Remarks) columns. The form also includes a section for '調査者' (Investigator) and '調査日' (Investigation Date).

チェック項目に○印を付け、

①典型的な伝統構法型住宅 **方法2**

②部分的に伝統構法的な要素を含んだ住宅 **方法1**

を判断する。

※在来の増築がある場合は **方法1**

※審査会の時に、この名古屋市 伝統構法等及び対象外報告書
を診断結果報告書と同時に提出する。

④「診断対象外の場合」について

【令和5年度 名古屋市民間木造住宅耐震診断マニュアル（事務編）P12参照】

4-2. 診断対象外の場合（P4.「名古屋市民間木造住宅耐震診断事業フロー」参照）

(1) 現地調査で「診断対象外」が判明した場合は、すみやかに名古屋市、事務所協会両方に連絡する。

対象外となる根拠資料（図面や写真）を作成または撮影する。

●診断対象外の例

- ・木造以外の構造
 - ・3階建
 - ・枠組壁構法
 - ・住宅部分が延床面積の1/2未満
 - ・昭和56年6月以降着工
 - ・1m以上のオーバーハング
 - ・極端な変形建物
- など

(2) 『名古屋市 伝統構法等及び対象外報告書』を作成する。

(3) 対象外報告書及び根拠資料をすみやかに名古屋市へ提出する。

※提出を確認次第、申込者へ対象外通知を送付するため

(4) 診断業務完了報告を行う ※P44参照。

すみやかに事務所協会まで『耐震診断業務完了報告書』をFAXで送る。

※完了報告書は診断報酬請求を兼ねるもの。必ず手続きを忘れないように。

※交通費ではなく、調査した結果を申込者へ報告したものとして支払います。

2. その他の対象外住宅

- 対象外理由（○付け）
- ・木造以外の構造（ 造）
 - ・3階建
 - ・枠組壁構法等
 - ・住宅部分が延床面積の1/2未満
 - ・昭和56年6月以降着工
 - ・1m以上のオーバーハング
 - ・極端な変形建物
 - ・その他（)

現地調査の状況から、
①典型的な伝統構法型住宅
②部分的に伝統構法的な要素を含んだ住宅
③その他の耐震診断対象外住宅
(○付け) と判断しました。

診断申込者名 _____ 様

受付番号 _____

現地調査年月日 令和 年 月 日

調査した診断員氏名 _____

登録番号 _____

■対象外となる根拠資料

※対象外と判断できる箇所の写真、図面等を添付。

【コメント】

【根拠資料】

(3) 平面図作成、写真撮影

平面、壁仕様等を調査し、写真撮影を行う。図面がある時も必ず現地と照合すること
※特に図面上で筋交いの明記があるときは、現地の状況をよく確認すること
(図面では壁があっても現地はない場合がある)

他、現地診断の詳細は『改訂(第4版)愛知県木造住宅耐震診断マニュアル』等参照。

(4) 居住者のプライバシー等の理由で建物内部の調査を部分的に拒否された場合は、診断精度に影響する旨を申込者に説明し、診断結果報告書に調査できなかった内容を明記する。

(5) 調査補助員を同行させる場合は、申込者にお電話で事前にお伝えしてください。

(6) 所有者名が依頼票と異なっていた場合

ただちに名古屋市へ連絡する。(耐震診断は、所有者からのお申込みに限るため)
※字が異なっていた場合は、正しい字で報告書を作成する。

(7) 同一敷地内で建物が2棟以上あった場合(母屋・離れ等)

昭和56年5月以前着工の住宅のみを診断対象とする。
また、2棟以上に分けて診断した場合でも報告書は1つにまとめる。
(資料編「増築の取扱い」参照)

(8) 伝統構法の要素を含む場合

『名古屋市 伝統構法等及び対象外報告書』を作成する。

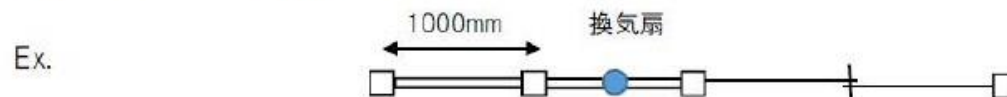
② 換気扇がある壁の耐力について

・平成27年建防協のQ&A(3月3日版「2012年改訂版木造住宅耐震診断と補強方法」の質問回答集P13 Q3.68)に、「1棟の住宅内で、その個所が少ないという前提のもとでは、換気口程度は無視してもかまいません。」と回答あり。
つまり、木改修の際でのコンセントの穴くらいであれば耐力をみてよい。(それ以上の穴である場合は「0」入力)

※名古屋市としては右の通りの入力法で統一する

換気口150φ未満の場合は、壁の耐力で入力。

換気口150φ以上の場合は、換気口壁は「0」で入力。



	合計	土塗 2.4	換気扇	窓型開口
150φ未満	6.0	2.4	2.4	0.6×2
150φ以上	4.2	2.4	0入力	0.6×2

③ 仕上げが連続した 600mm 以下の壁の取扱いについて

壁柱位置で区切って入力。ただし、900 グリッド未満にしないこと（市では 900～1,000 のグリッドで入力設定を統一）。

※平成 27 年建防協の Q & A（3 月 3 日版「2012 年改訂版木造住宅耐震診断と補強方法」の質問回答集 P 15 Q3. 83）には、「同じ仕様が連続しており、両端に柱があれば 600 未満でも評価して良い。」とあるが、市としては 600 未満の壁は評価しない。

※次ページ資料参考

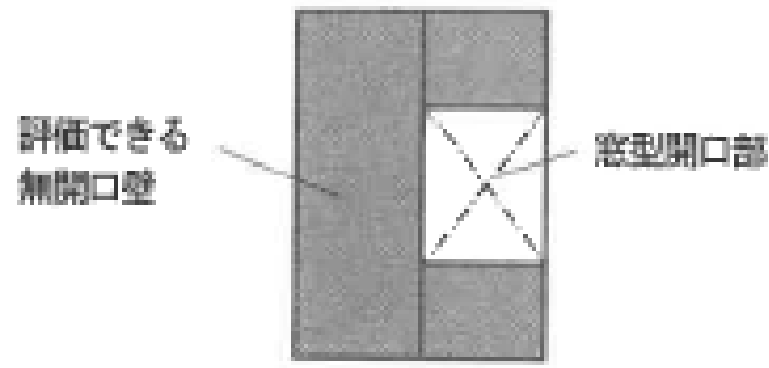
④ 有効開口壁の耐力評価する場合

- ・ 掃き出し型開口壁：垂れ壁（高さ 360 mm 以上）のみを有する開口壁。
- ・ 窓型開口壁：垂れ壁と腰壁を有する（開口高さ 600 mm～1200 mm 程度）開口壁

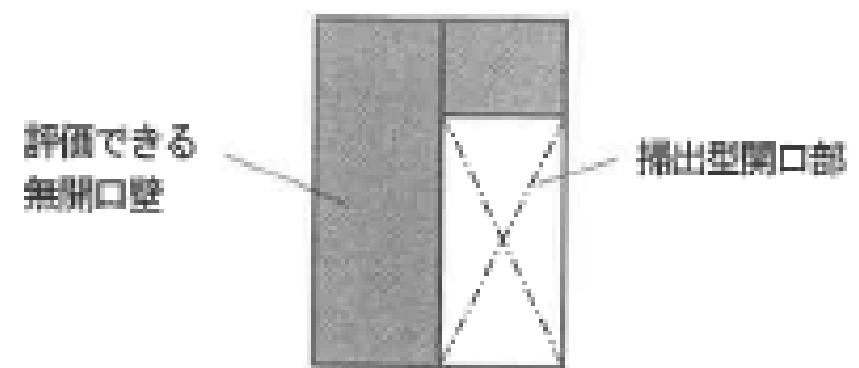
※「一般診断法によるプログラム」の P 35～P 37（重要 1）耐震診断法上における開口部の評価の考え方について（Q&A より抜粋）1.～9. の内容に注意。

(重要1) 耐震診断法上における開口部の評価の考え方について (Q&A より抜粋)

1. 窓型開口部は0.6kN/m、掃き出し型開口部は0.3kN/mとして評価する。ただし、少なくとも片側に耐力評価ができる無開口壁があることを前提とする。



0.6kN/m



0.3kN/m

※耐力評価ができる無開口壁について、不明壁は現況診断時に限り許容する。なお、不明壁として評価できる壁の最小長さは、面材壁と同様に60cm以上とする。

※補強診断時には不明壁の評価はできないため、隣接する開口部の評価もできない。開口部を評価するためには、隣接する不明壁を特定して耐力を与えるか、補強により耐力評価できる壁とする必要がある。

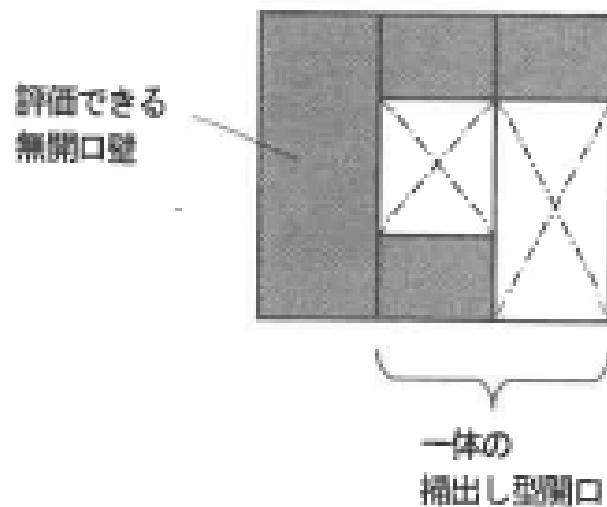
Wee2012 (Win10) では、隣接する壁が耐力評価できる無開口壁の場合に限り、開口部を計算します。

2. 評価できる開口部の最小壁長の規定はない。ただし、両端に柱があることが前提である。



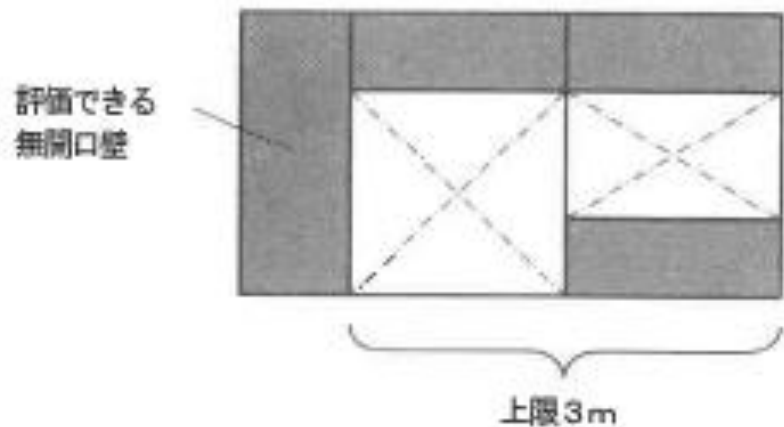
Wee2012 (Win10) では、両端に柱があることを前提として、開口部の入力を行って下さい。両端に本柱が無い開口部の場合には、耐力 0kN/m の無開口壁として入力します。

3. 連続する窓型開口と掃き出し型開口は、一体の掃き出し型開口と見なして評価する。



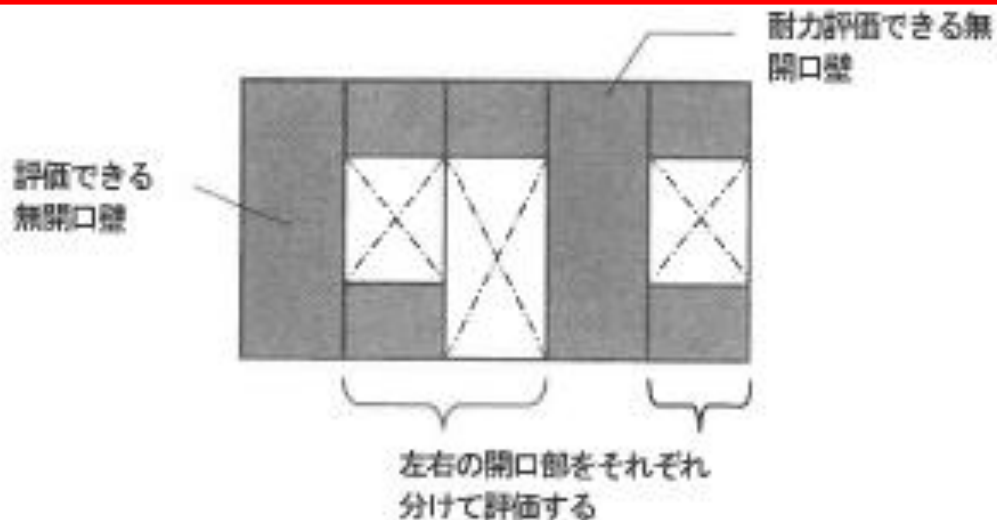
Wee2012 (Win10) では、一体の掃き出し型開口と見なして計算します。

4. 評価できる開口部の壁長さは3mを上限とする。



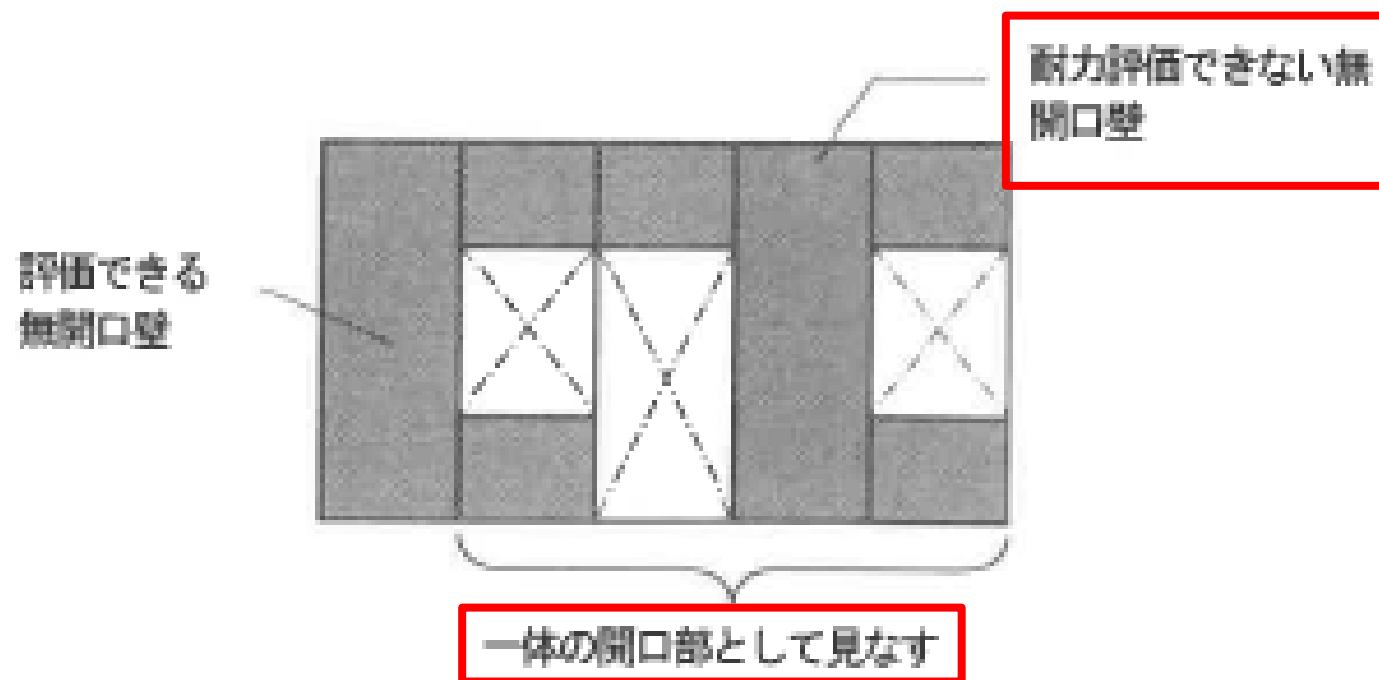
Wee2012 (Win10) では、開口部の壁長さの上限を3mとして計算します。

5. 開口部と開口部の間にある無開口壁が、耐力評価できる場合、左右の開口部をそれぞれ分けて評価する。



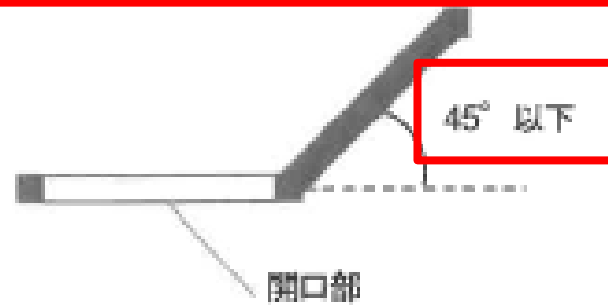
Wee2012 (Win10) では、左右の開口部をそれぞれ分けて計算します。

6. 開口部と開口部の間にある無開口壁が、耐力評価できない場合、当該壁を開口部と見なし、一体の開口部として見なす。一体の開口部を窓型開口部として評価できる場合には窓型開口部として、掃き出し型開口部として評価できる場合には掃き出し型開口部として評価する。



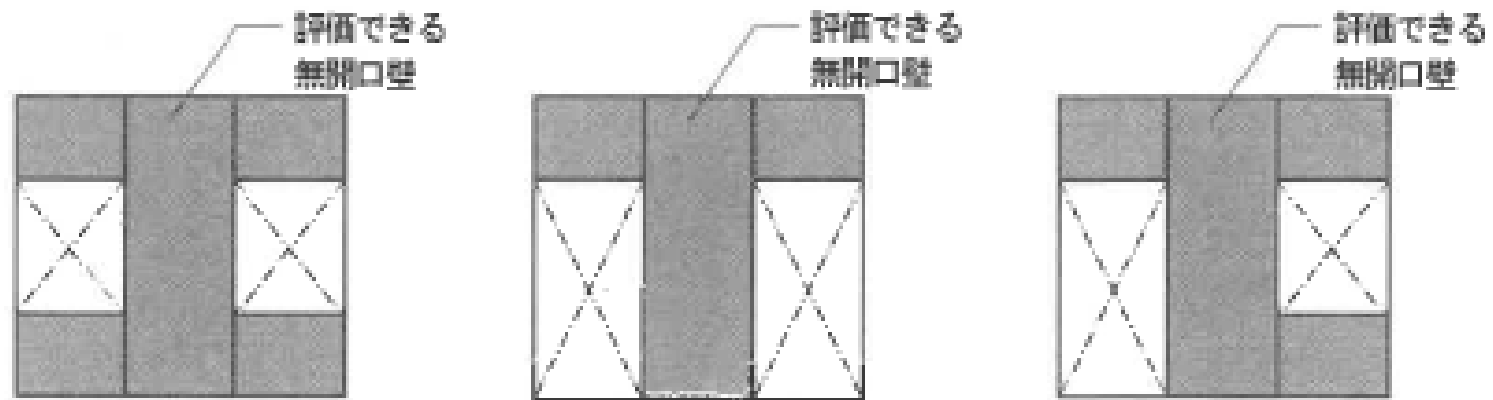
Wee2012 (Win10) では、耐力評価できない無開口の壁について、耐力 0 kN/m の壁として必ず入力して下さい。これにより、一体の開口部と見なして計算します。

7. 開口部に隣接する壁が斜め壁の場合、開口部と同じ方向で耐力評価ができる場合（45°以下に限定）、隣接する開口部を評価することができる。



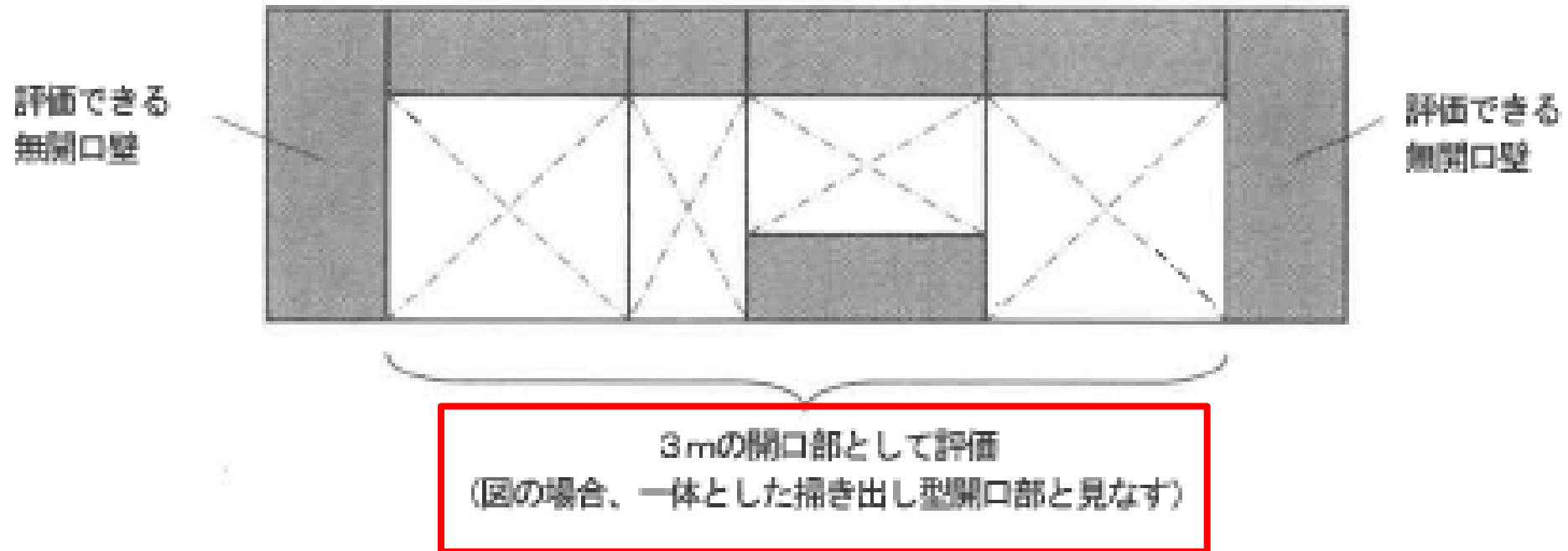
Wee2012 (Win10) では、自動的に45°以下の耐力評価できる無開口壁が隣接する場合に計算します。

8. 中央に耐力評価できる無開口壁があり、その左右に開口部がある場合、左右の開口部はそれぞれ評価することができる。



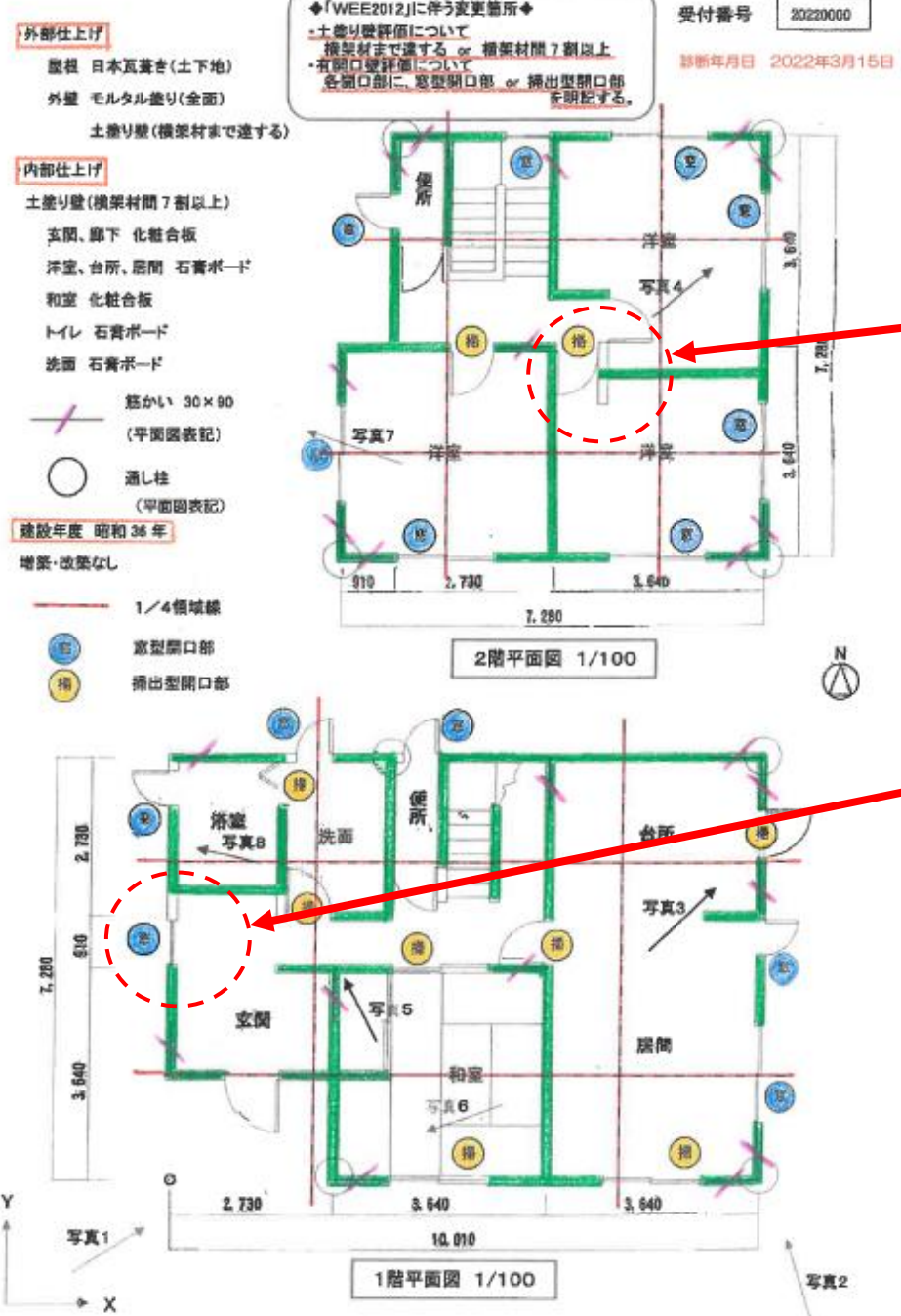
Wee2012 (Win10) では、左右の開口部をそれぞれ計算します。

9. 連続する長さ6m以上の開口壁長の開口部は、3mと3mに分けて評価することはできず、上限3mとして評価する。ただし、中間に廊下等がある場合（縁が切れる場合）には、左右の開口部を分けて評価することとし、それぞれ3mを上限として評価することができる。



Wee2012 (Win10) では、上限3mとして計算します。

壁入力と有効開口壁評価入力について



壁入力

900 Wee入力可能
 450
 600未満

- × Weeでは単独で600以下は入力できない
- 耐力評価できない無開口壁(0無し)
- 有開口壁(窓型開口・掃き出し型開口)

評価○評価× 連続した同じ仕様であっても600未満の壁は耐力評価しない

- * 玄関、立ち上がりのない勝手口、欄間付き掃き出しのある壁は入力しない
- * 換気扇(150φ以上)のある壁は0入力
- * 壁入力上段・下段には、「不明」は入力しない

外(モルタル)
 ① ② ③
 内(ボードt=9) ④ 内(ボードt=9)

		土あり	評価	土なし	評価
①	外面	モルタル	2.2	モルタル	2.2
	芯	無し	0	無し	0
	外面	土壁	2.4	ボード	1.1
②	外面	無し	0	無し	0
	芯	無し	0	無し	0
	外面	無し	0	無し	0
③	外面				
	芯	窓型開口	0.6	窓型開口	0.6
	外面				
④	外面	ボード	1.1	ボード	1.1
	芯	無し	0	無し	0
	外面	土壁	2.4	ボード	1.1

*筋かいがある場合は芯に入力

内(ボードt=9) 外(鉄板)
 ① ②
 内(ボードt=9)

		土あり	評価	土なし	評価
①	外面	ボード	1.1	ボード	1.1
	芯	無し	0	無し	0
	外面	土壁	2.4	ボード	1.1
②	外面	無し	0	無し	0
	芯	無し	0	無し	0
	外面	土壁	2.4	ボード	1.1

*筋かいがある場合は芯に入力

03 診断員向けのログイン画面が表示されます。ユーザー名とパスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックします。

名古屋市民間木造住宅耐震診断審査会

ユーザー名とパスワードを入力して下さい。

ユーザー名

パスワード

ログイン

ユーザー名： 例 02尾-0001

パスワード： 例 nagoyanagoya

▲審査日予約の入力画面
名古屋支部HPにて入力して
ください。

ユーザー名： 例 02尾-0001

パスワード： 例 nagoyanagoya

よくある記入漏れ・記載ミスなどについて

- ①WEE計算書の内容と最終頁の記入漏れなど
- ②耐震診断業務完了報告書の内容

方法 1

一般財団法人 日本建築防災協会
国土交通大臣指定 耐震改修支援センター

*方法1は、在来軸組構法や枠組壁工法など、壁を主な耐震要素とした住宅を主な対象とする。

1. 建物概要

① 建物名称 : 名古屋 邸 **WEEは竣工年を記載**

② 所在地 : ○区△町...

③ 竣工年 : 昭和 36年 **築10年以上** **※調査日: 2022年 3月 15日**

④ 建物仕様 : 木造2階建
非常に重い建物(屋根仕様:土葺瓦屋根等 壁仕様 (外壁、内壁とも))

⑤ 地域係数 Z : 1.0 **調査日の記載漏れ要注意**

⑥ 地盤による割増: 1.5

⑦ 形状割増係数 : 1階=1.00

⑧ 積雪深さ : 無し(1m未満)

⑨ 基礎仕様 : II ひび割れのある鉄筋コンクリートの布基礎又はべた基礎、無筋コンクリートの布基礎、柱脚に足固めを設け鉄筋コンクリート基礎に柱脚または足固め兼縁した玉石基礎、軽微なひび割れのある無筋コンクリート造の基礎

⑩ 床仕様 : II 火打ち+荒板 (4m以上の吹き抜けなし)

⑪ 主要な柱の径 : 120mm未満

⑫ 接合部仕様 : IV ほぞ差し、釘打ち、かすがい等

* バスとファイル : I:Y20220000.w12 **ファイル名は受付番号のみで保存**

2. 壁配置図

1階 (1モジュール=910mm)

Y20
Y19
Y18
Y17

平面図とのモジュールの相違がないように要注意

耐震診断依頼者 名古屋 次郎 様

総合評価 (診断結果)

【地盤】

地盤	施されている対策の程度	記入	注意事項
よい・普通地盤			
悪い地盤			
非常に悪い地盤 (埋立地、盛土、 軟弱地盤)	表層の地盤改良を行っている 杭基礎である 特別な対策を行っていない	○	

【地形】

地形	施されている対策の程度	記入	注意事項
平坦・普通		○	
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁 石積み 特別な対策を行っていない		

【基礎】

基礎仕様	状態	記入	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全 ひび割れが生じている		
無筋コンクリート基礎	健全 軽微なひび割れが生じている ひび割れが生じている	○	
玉石基礎	足固めあり 足固めなし		
その他(ブロック基礎等)			

【上部構造】

上部構造評点のうち最小の値	0.18 (倒壊する可能性が高い)
---------------	-------------------

注)1.5以上:倒壊しない 1.0~1.5未満:一応倒壊しない 0.7~1.0未満:倒壊する可能性がある 0.7未満:倒壊する可能性が高い

【計算メッセージ】

※1.地盤による必要耐力の割増がされています。

【その他注意事項】

地盤による必要耐力の割増が無い場合は、「メッセージがありません。」となりますので要注意

診断者	耐震 太郎	講習会	主催者	公共団体 (名古屋市)
所属			講習修了番号	
連絡先	TEL:	※この部分は記載しないこと。要注意		

耐震診断業務完了報告書

令和 年 月 日

(公社)愛知県建築士事務所協会 様

診断員の皆様へ、診断業務の生産は原則年4回とし、7月・9月・12月・3月の区切りで清算致します。
 事務処理業務の関係より区切りの月の25日にて処理させて頂きます。
また、3月に関しては年度末清算の関係より締め切りは原則15日といたします。
 業務完了後は速やかに完了報告書を**事務局まで**、FAXにて報告頂きますようお願いいたします。
 また、支払口座振替書の未提出の方は、用紙ダウンロードの上事務局までご持参ください。
 (個人情報保護の関係より出来る限りご持参或いは審査会時点にて提出願います)
補足：業務完了報告書は必ず事務局まで直接FAX送信してください。
【注意】
FAX:052-223-2888 (いちご伏見ビル内事務所協会事務局)での対応となります。

愛知県木造耐震診断員

氏名 _____
 登録番号 _____

以下の物件について、耐震診断業務を完了しましたので報告します。

令和2年度より記載内容が追加されていますので記載漏れがない様にご説明して下さい

耐震診断結果報告年月日						
対象外	<input type="checkbox"/>	理由:				
申込者意向	耐震改修意欲			耐震シェルター・防災ベッド意欲		
	あり	なし	不明	あり	なし	不明
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

受付番号						
診断申込者氏名						
耐震診断結果報告年月日						
対象外	<input type="checkbox"/>	理由:				
申込者意向	耐震改修意欲			耐震シェルター・防災ベッド意欲		
	あり	なし	不明	あり	なし	不明
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

受付番号						
診断申込者氏名						
耐震診断結果報告年月日						
対象外	<input type="checkbox"/>	理由:				
申込者意向	耐震改修意欲			耐震シェルター・防災ベッド意欲		
	あり	なし	不明	あり	なし	不明
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

以上の物件に関する個人情報等は全て返却・消去しました。



名古屋市・愛知県

受付番号 20220000

報告年月日 2022年09月16日

木造住宅耐震診断結果報告書



申請者名	名古屋 次郎 様	
申請者連絡先	090-000-0000	
耐震診断員	氏名	耐震 太郎
	登録証番号	02尾-0000
	所属	耐震設計事務所
	電話	090-000-0000



市の確認印を確認

申込者意向	あり	なし	不明	あり	なし
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 以上の物件に関する個人情報等は全て返却・消去しました。					

※この診断業務は耐震診断員の最後まで「責任」に於いて実施するものであること。

その他書類関係

名古屋市

診断員氏名	
診断員番号	
診断員住所	〒
振込先金融機関名	振込先は診断員の個人口座に限ります
支店名	
口座番号	
預金種別	
口座名義フリガナ	
口座名義	

令和 年 月 日

木造住宅耐震診断員 様

公益社団法人 愛知県建築士事務所協会 事務局

耐震診断に係る耐震診断員経費の納入先について

日頃は、当協会にご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、あなたが行いました民間木造住宅耐震診断に係る診断員経費の納入先を下記様式によりお知らせいただきますようお願い致します。

なお、愛知県木造住宅耐震診断は診断員個人を対象として依頼しているため、法人口座にはお支払できません。**振込先は診断員の個人口座に限ります。**で、ご注意ください。

記

名古屋市	
診断員氏名	
診断員番号	
診断員住所	〒
振込先金融機関名	
支店名	
口座番号	
預金種別	
口座名義フリガナ	
口座名義	

※ 振込先 (公社) 愛知県建築士事務所協会

FAX : (052) 223-2888

③耐震事業部 審査員 青木美幸

耐震診断業務に伴う損害賠償保険についての
説明と注意事項

◆現地調査（診断）作業時に事故が起きた時の処置

①現地調査（診断）作業時におきた事故に対しては、保険に加入しています。

- 1物件当たり、対人一人最高1千万円（最高3千万円）
- 物損1件当たり、最高1千万円

②但し上記に記すよう診断に関係ない備品の破損に関しては厳しく査定されますのでご注意ください。

終わります。
ありがとうございました。

令和5年度の
名古屋市民間木造住宅無料耐震診断業務
にご協力お願い致します。